

◆ 自治基本条例について

問10-1 「大阪狭山市自治基本条例」を知っていますか（○は1つ）

【全体】

「まったく聞いたことがない」が58.3%で最も多く、「読んだことはないが、名前を聞いたり、見たりしたことはある」が26.5%で続いている。

【性別】

性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

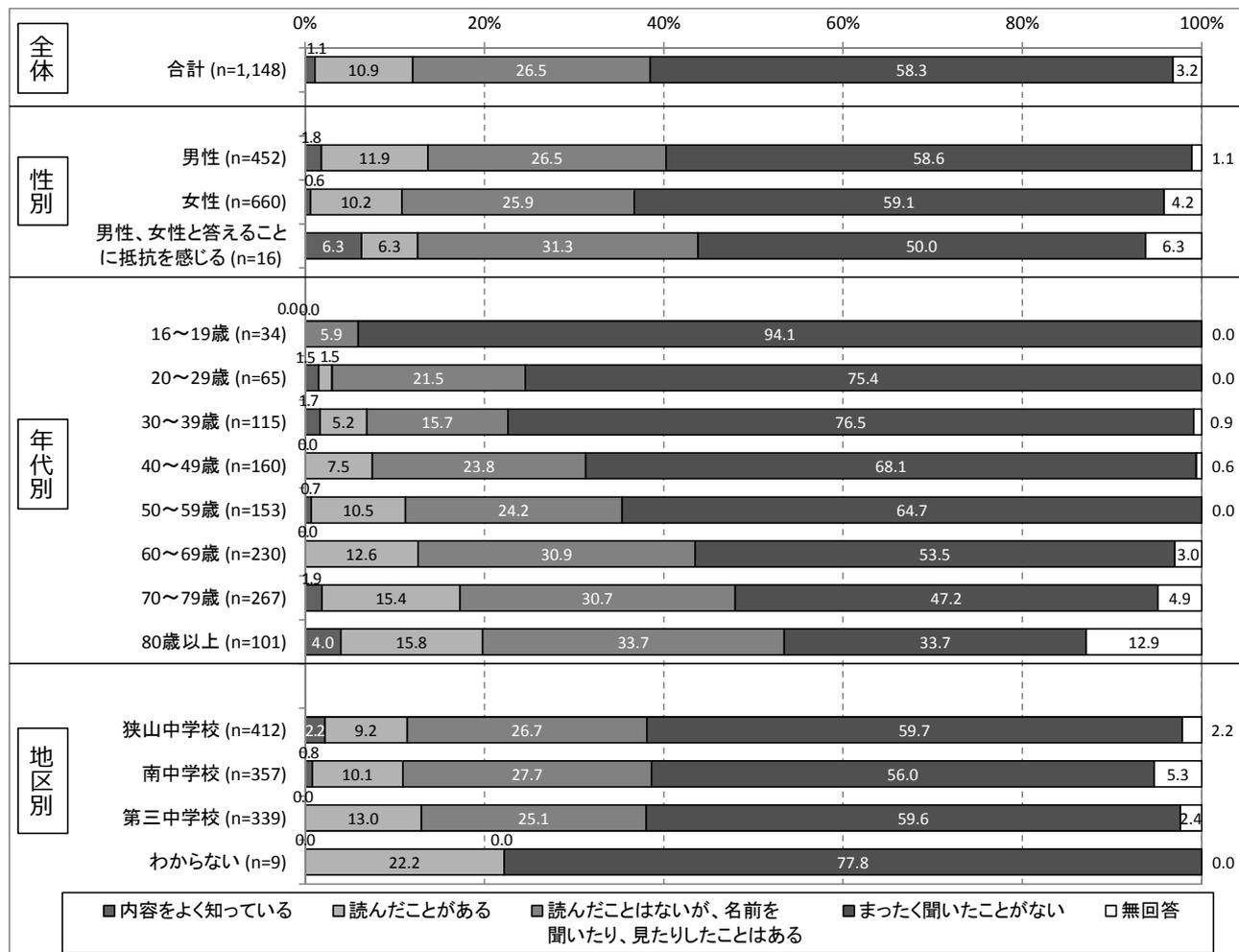
10歳代～40歳代は、他の年代に比べ「まったく聞いたことがない」の比率が高い。

70歳代は、他の年代に比べ「読んだことがある」と「読んだことはないが、名前を聞いたり、見たりしたことはある」の比率が高い。

80歳以上は、他の年代に比べ「内容をよく知っている」、「読んだことがある」、「読んだことはないが、名前を聞いたり、見たりしたことはある」の比率が高い。

【地区別】

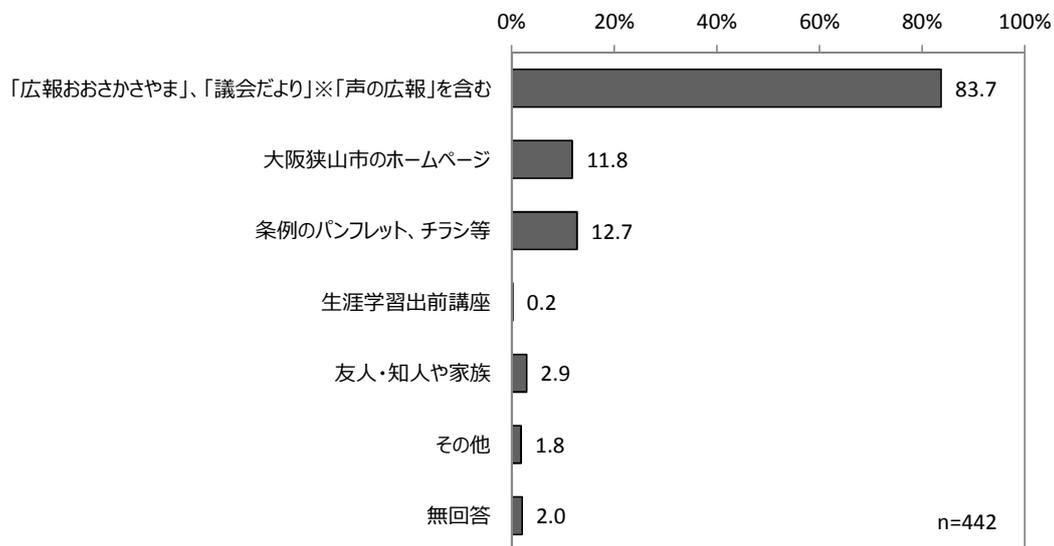
地区による大きな違いは見られない。



問10-2 問10-1で1～3に回答した方にお聞きします。「大阪狭山市自治基本条例」を何で知りましたか。(〇はいくつでも)

【全体】

「広報おおさかさやま、議会だより」が83.7%で最も多く、「条例のパンフレット、チラシ等」が12.7%、「大阪狭山市のホームページ」が11.8%と続いている。



【性別】

性別による大きな違いは見られない。

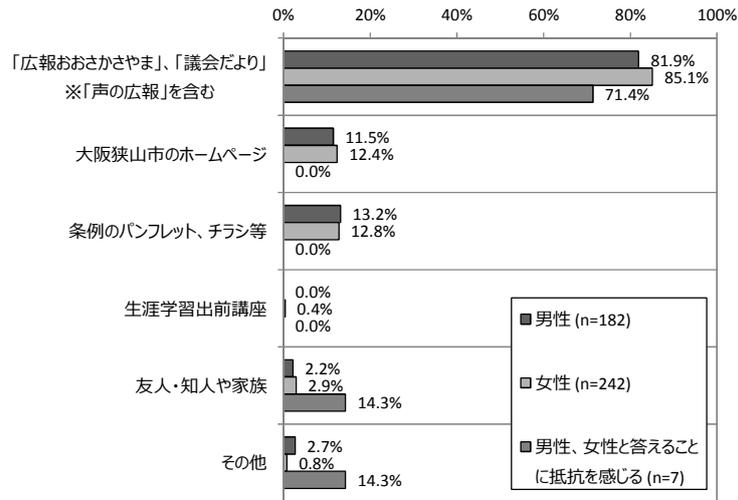
【年齢別】 ※10歳代から30歳代の回答者数が少ないため、16～39歳に分類しなおして考察している。

有意な差は認められないが、10～30歳代は他の年代に比べ「広報おおさかさやま、議会だより」の比率が低い。

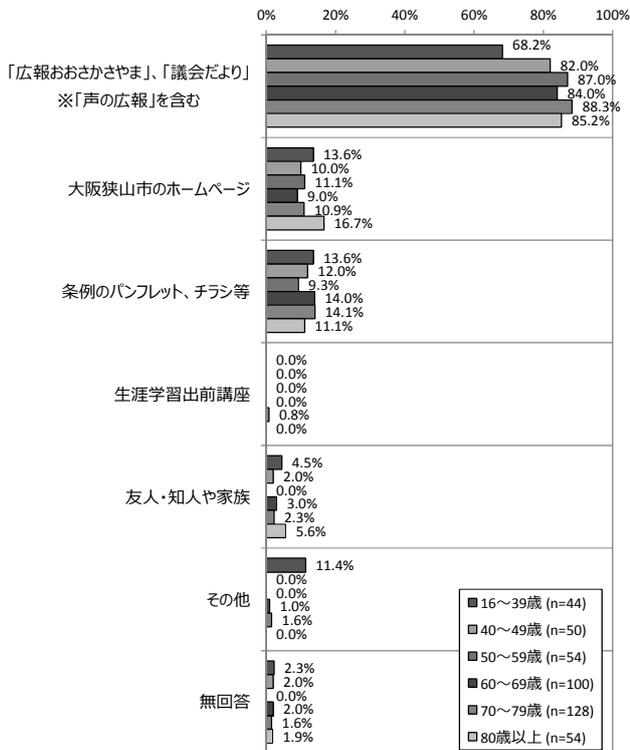
【地区別】

南中学校区は、他の地区に比べ「条例のパンフレット、チラシ等」の比率が高い。

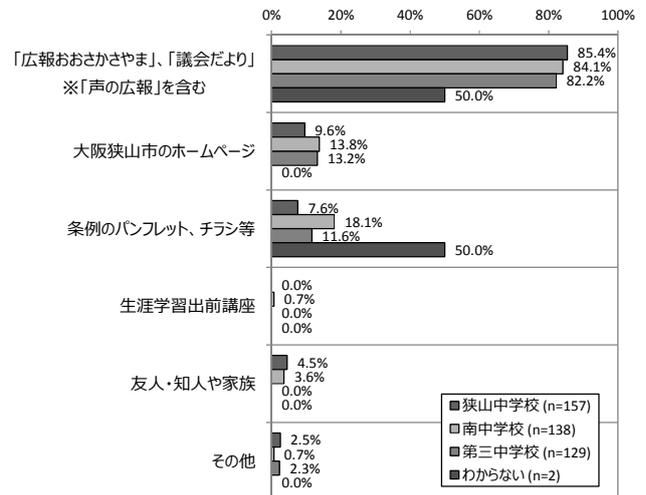
性別



年齢別



地区別



【その他について】

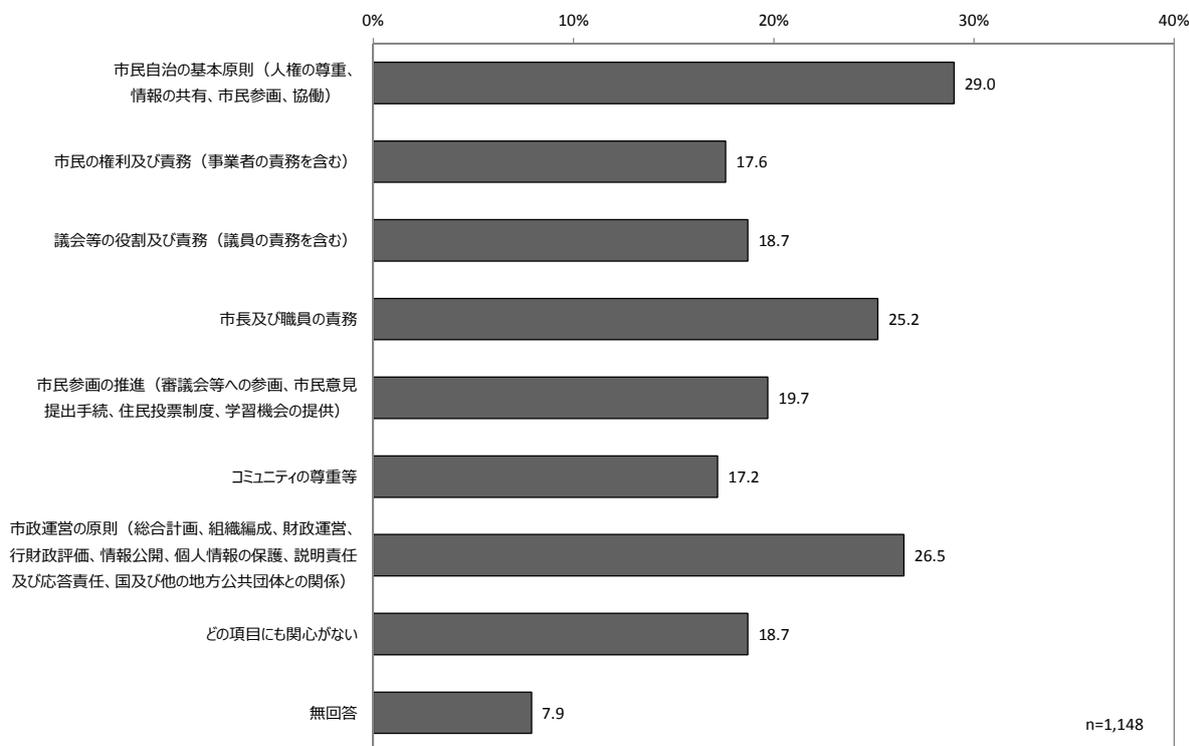
その他には、6件（回答者は6人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
本アンケートに同封されており、回答前に閲覧した。
同意見なので知っている。
まちづくり研究会。
市役所内。

問 1 0 - 3 「大阪狭山市自治基本条例」では次のような項目があります。あなたはどの項目に関心がありますか。(〇はいくつでも)

【全体】

「市民自治の基本原則」が 29.0%で最も多く、「市政運営の原則」が 26.5%、「市長及び職員の責務」が 25.2%で続いている。



【性別】

男性は、女性に比べ「市民の権利及び責務」、「市民参画の推進」の比率が高い。

女性は、男性に比べ「どの項目にも関心がない」の比率が高い。

【年齢別】

10 歳代は、他の年代に比べ「どの項目にも関心がない」の比率が高く、「市政運営の原則」の比率が低い。

20 歳代と 40 歳代は、他の年代に比べ「どの項目にも関心がない」の比率が高い。

30 歳代は、他の年代に比べ「どの項目にも関心がない」の比率が高く、「コミュニティの尊重等」の比率が低い。

70 歳代は、他の年代に比べ「議会等の役割及び責務」と「市長及び職員の責務」の比率が高い。

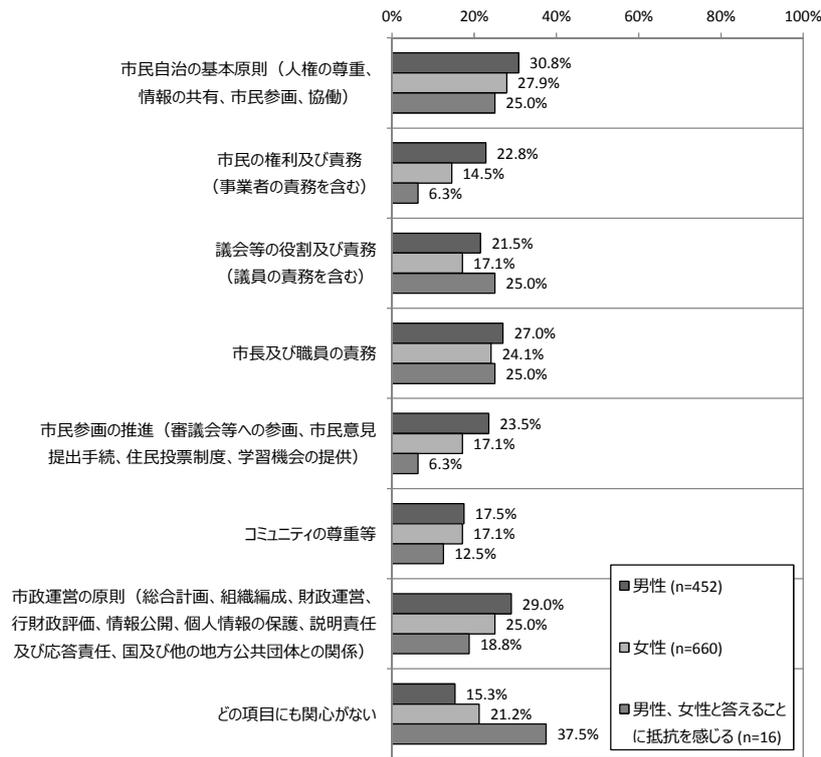
80 歳以上は、他の年代に比べ「市民自治の基本原則」、「議会等の役割及び責務」、「市長及び職員の責務」、「コミュニティの尊重等」の比率が高い。

「議会等の役割及び責務」、「市長及び職員の責務」は、概ね年代が高くなるほど比率が高くなっている。

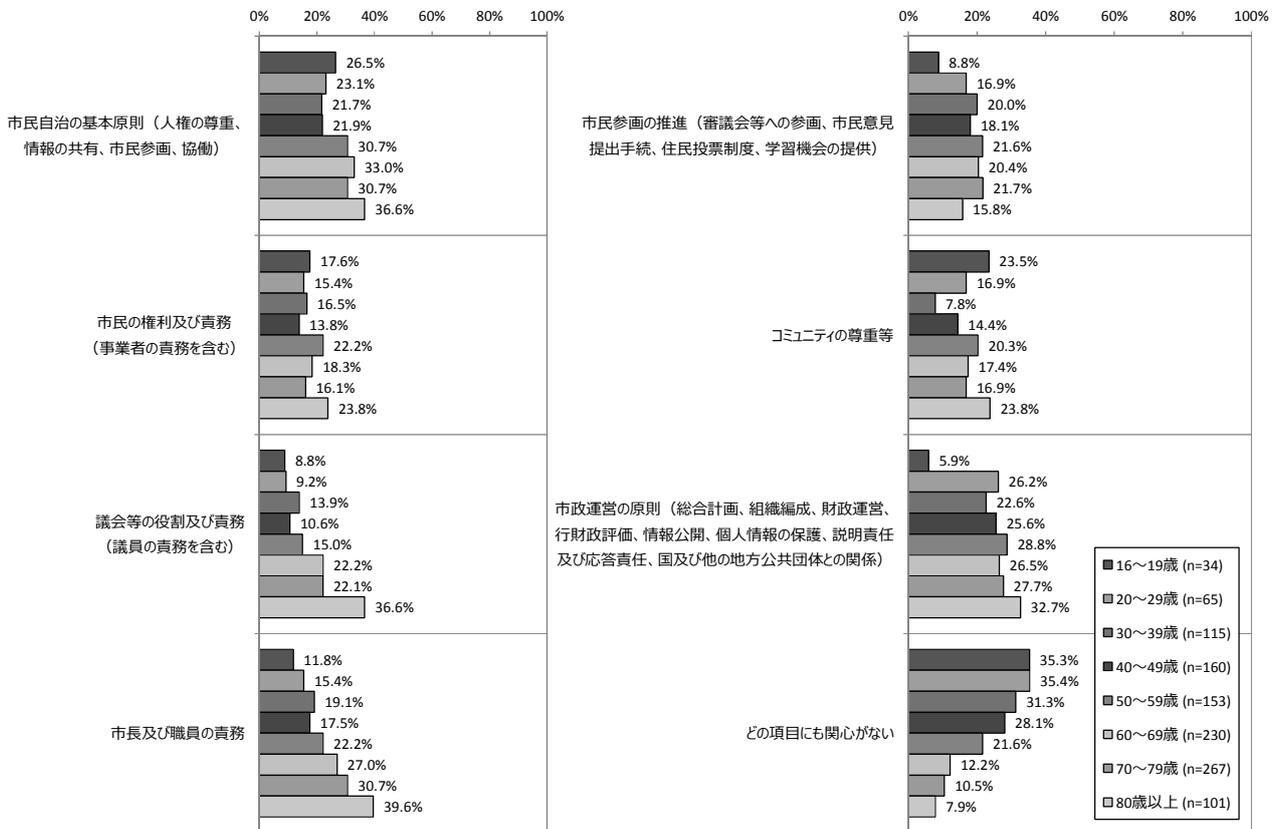
【地区別】

有意な差は認められないが、狭山中学校区は他の地区に比べ「コミュニティの尊重等」の比率が低く、第三中学校区は「市長及び職員の責務」の比率が低い。

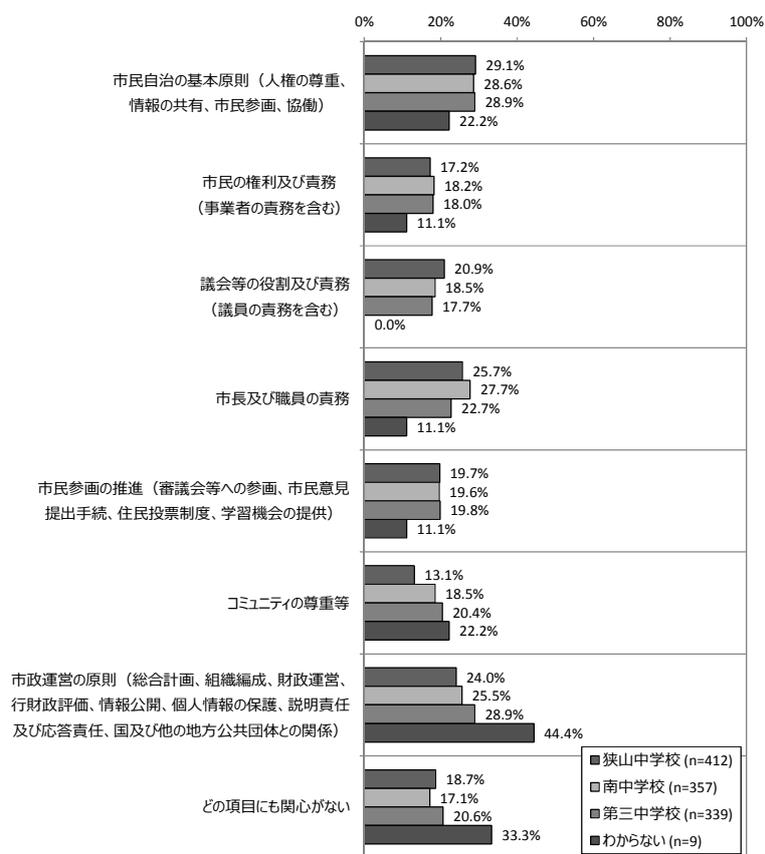
性別



年齢別



地区別



問 10-4 大阪狭山市では市政への市民参画の機会が十分にあると思いますか。(○は1つ)

【全体】

「普通」が 23.0%で最も多く、「あまり機会があると思わない」が 15.8%、「ややあると思う」が 15.1%で続いている。

【性別】

男性は、女性に比べ『あると思わない』（「あまり機会があると思わない」と「まったく思わない」の計）の比率が高い。

【年齢別】

10 歳代は、他の年代に比べ「わからない」の比率が高く、『あると思わない』の比率が低い。

20 歳代は、他の年代に比べ「わからない」の比率が高い。

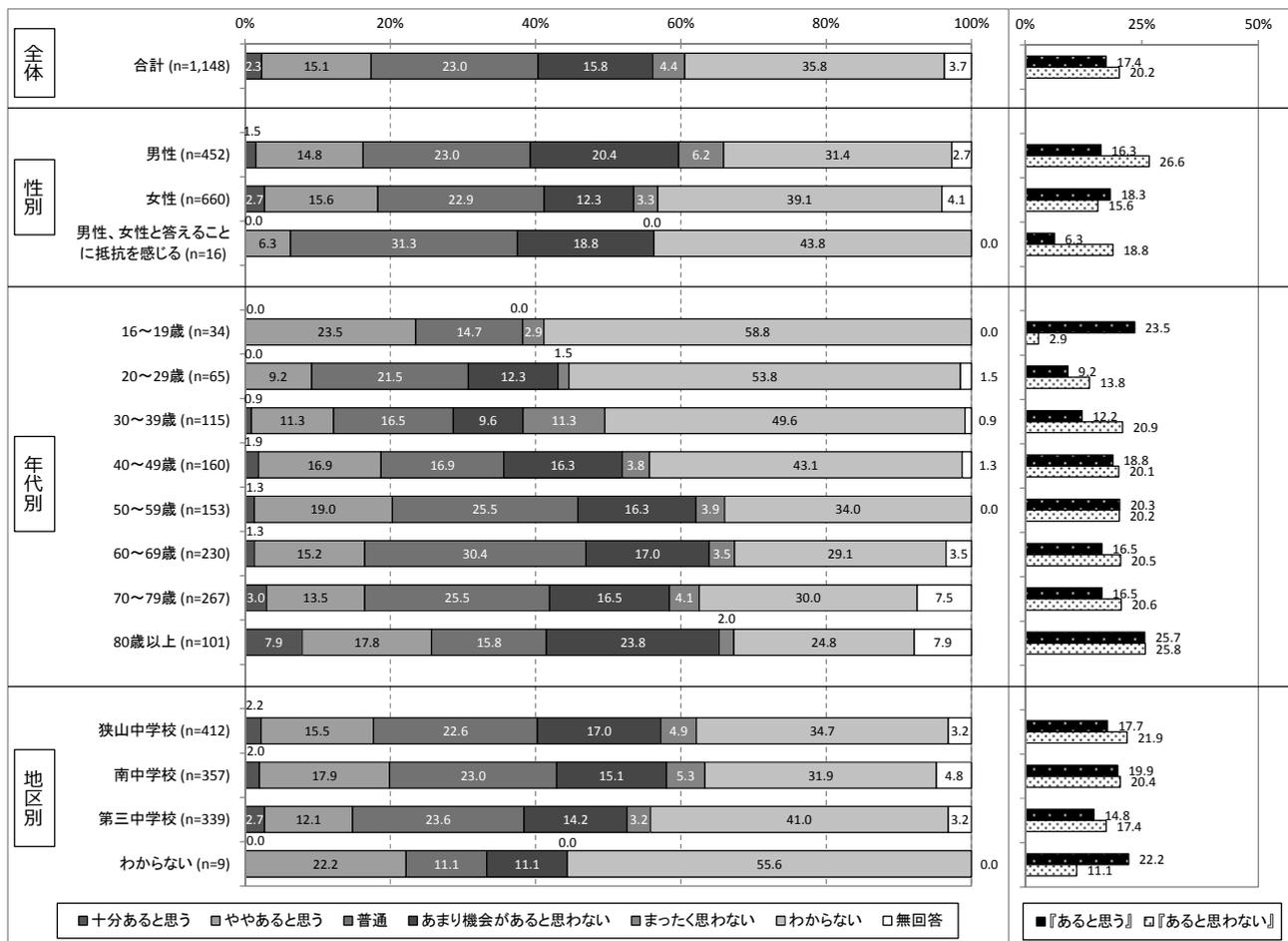
30 歳代は、他の年代に比べ「まったく思わない」と「わからない」の比率が高い。

60 歳代は、他の年代に比べ「普通」の比率が高い。

80 歳以上は、他の年代に比べ『あると思う』（「十分あると思う」と「ややあると思う」の計）の比率が高い。

【地区別】

有意な差は認められないが、第三中学校区は他の地区に比べ「わからない」の比率が高い。



問10-5 あなたは、以下のような機会を通じて市政に参画したことがありますか。(項目ごとに〇は1つつ)

①大阪狭山市の計画づくりについての説明会や話し合いの場などに参加したこと

【全体】

「ない」が69.9%で、全体の7割近くが大阪狭山市の計画づくりについての説明会や話し合いの場などに参加したことがない。

【性別】

性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

20歳代～30歳代は、他の年代に比べ「制度を知らない」の比率が高い。

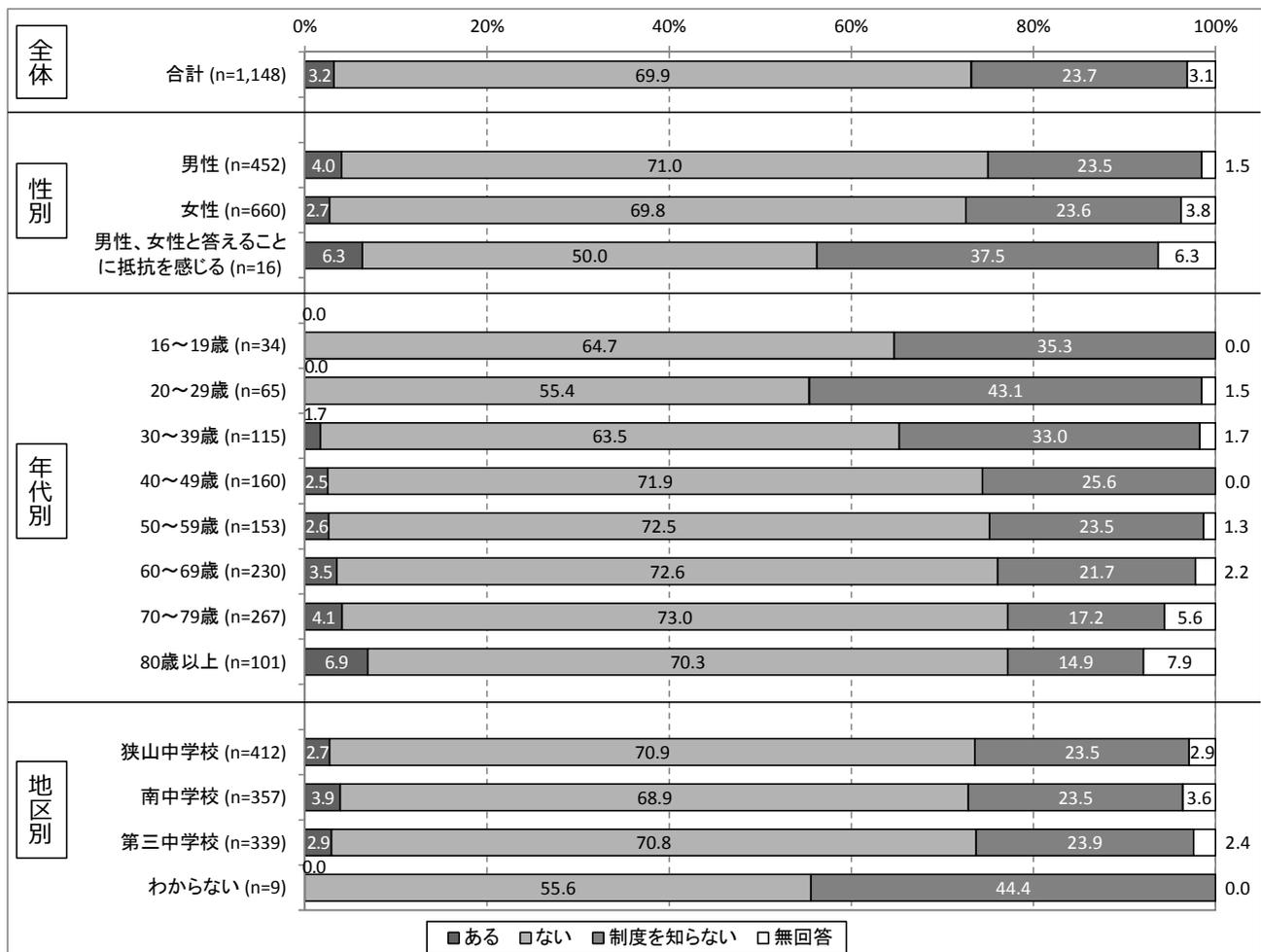
70歳代は、他の年代に比べ「ない」の比率が高い。

80歳以上は、他の年代に比べ「ある」の比率が高い。

「ある」は年代が高いほど比率が高く、「制度を知らない」は概ね年代が低いほど比率が高くなっている。

【地区別】

地区による大きな違いは見られない。



②大阪狭山市の審議会や検討委員会などの委員になったこと

【全体】

「ない」が73.3%で、全体の7割以上が大阪狭山市の審議会や検討委員会などの委員になったことがない。

【性別】

性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

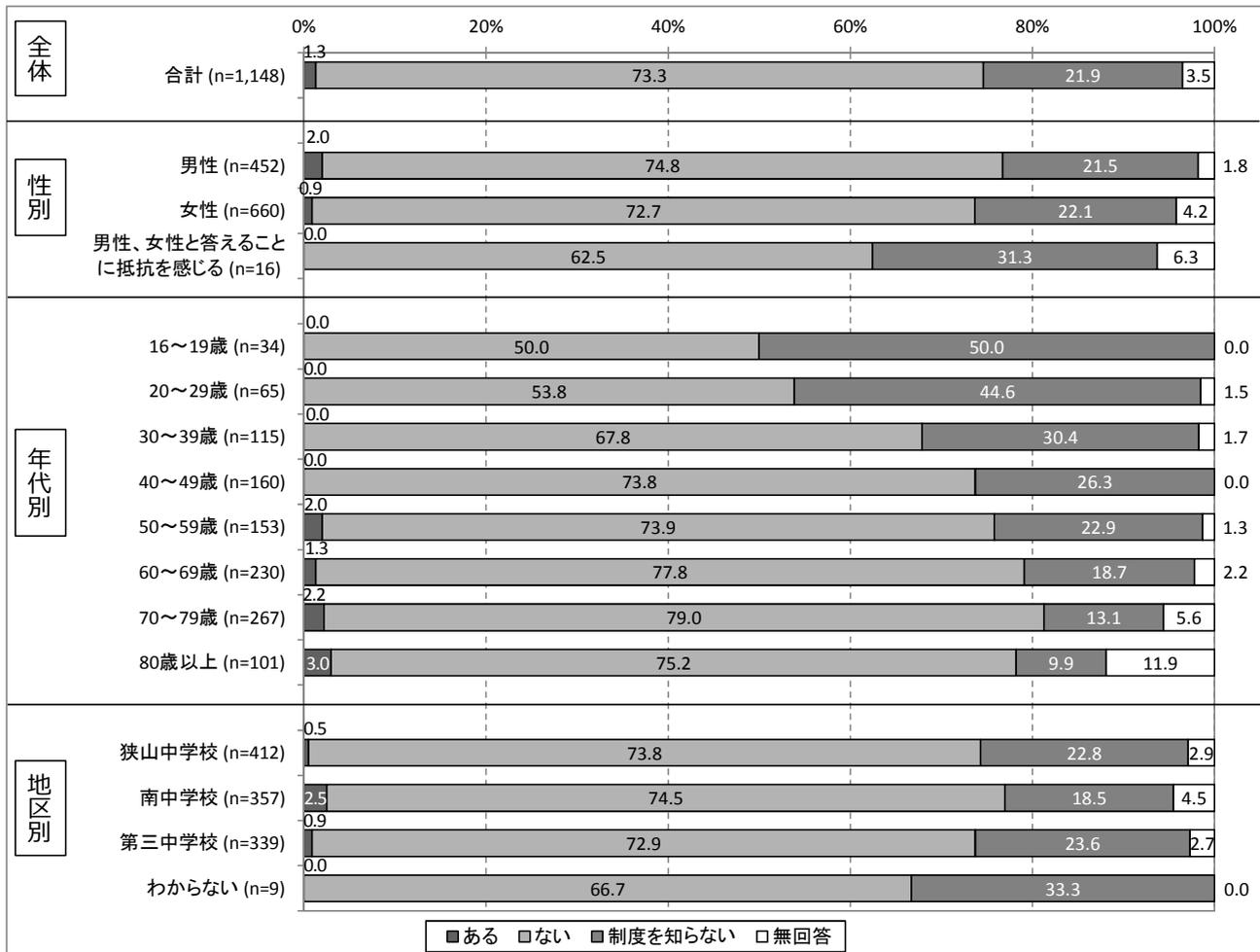
10歳代～30歳代は、他の年代に比べ「制度を知らない」の比率が高い。

70歳代以上は、他の年代に比べ「ない」の比率が高い。

「ある」は年代が高いほど比率が高く、「制度を知らない」は年代が低いほど比率が高くなっている。

【地区別】

有意な差は認められないが、南中学校区は他の地区に比べ「ある」の比率が高い。



③大阪狭山市に対して意見を提出したこと(市長への提言や市民意見提出手続(パブリックコメント)など)

【全体】

「ない」が74.0%で、全体の7割以上が大阪狭山市に対して意見を提出したことがない。

【性別】

性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

10歳代～30歳代は、他の年代に比べ「制度を知らない」の比率が高い。

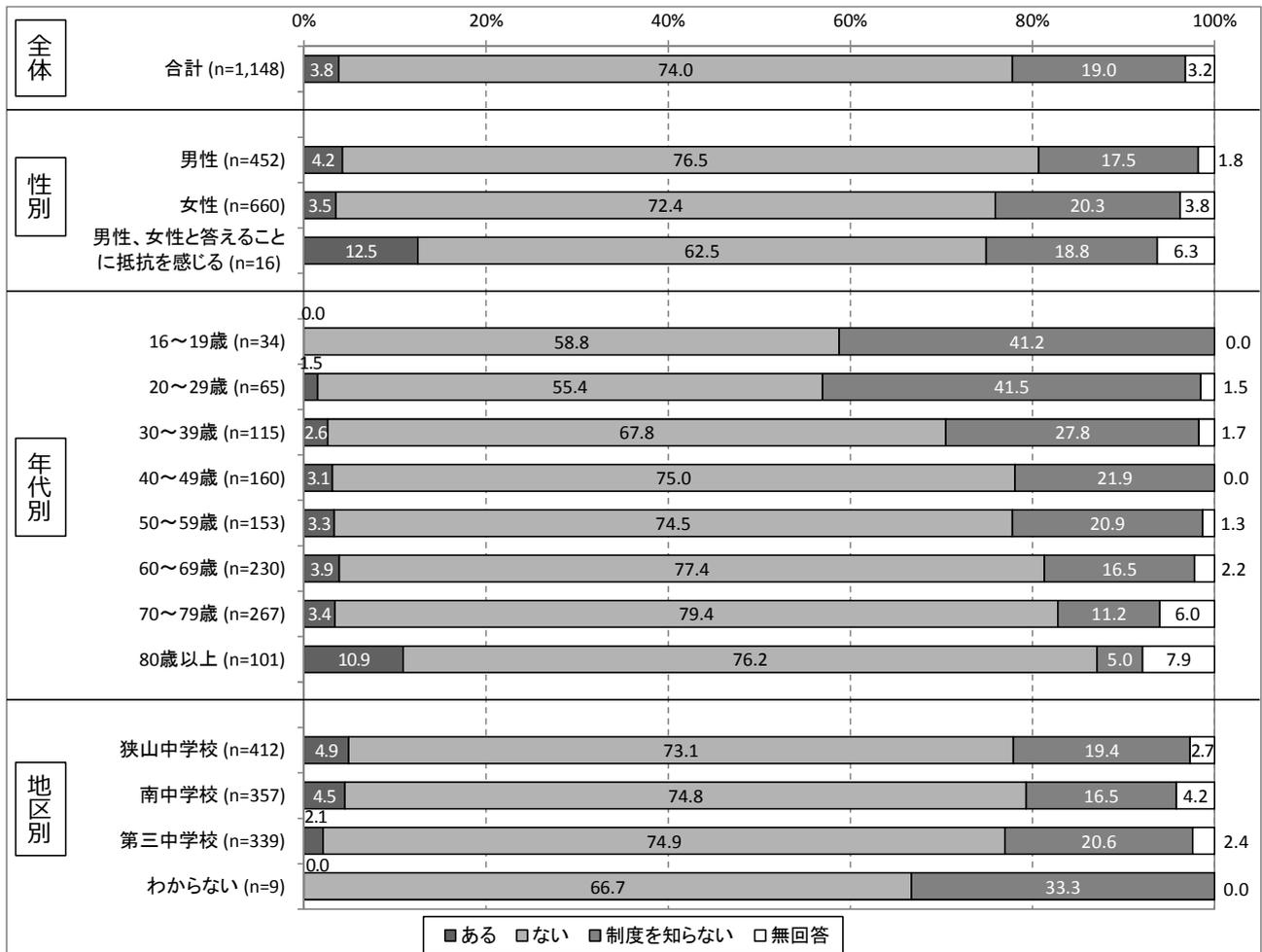
70歳代は、他の年代に比べ「ない」の比率が高い。

80歳以上は、他の年代に比べ「ある」の比率が高い。

「ある」は年代が高いほど比率が高く、「制度を知らない」は概ね年代が低いほど比率が高くなっている。

【地区別】

有意な差は認められないが、第三中学校区は他の地区に比べ「ある」の比率が低い。



④市民活動支援センターの行事や活動に参加したこと

【全体】

「ない」が68.6%で、全体の7割近くが市民活動支援センターの行事や活動に参加していない。

【性別】

性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

10歳代～20歳代は、他の年代に比べ「制度を知らない」の比率が高い。

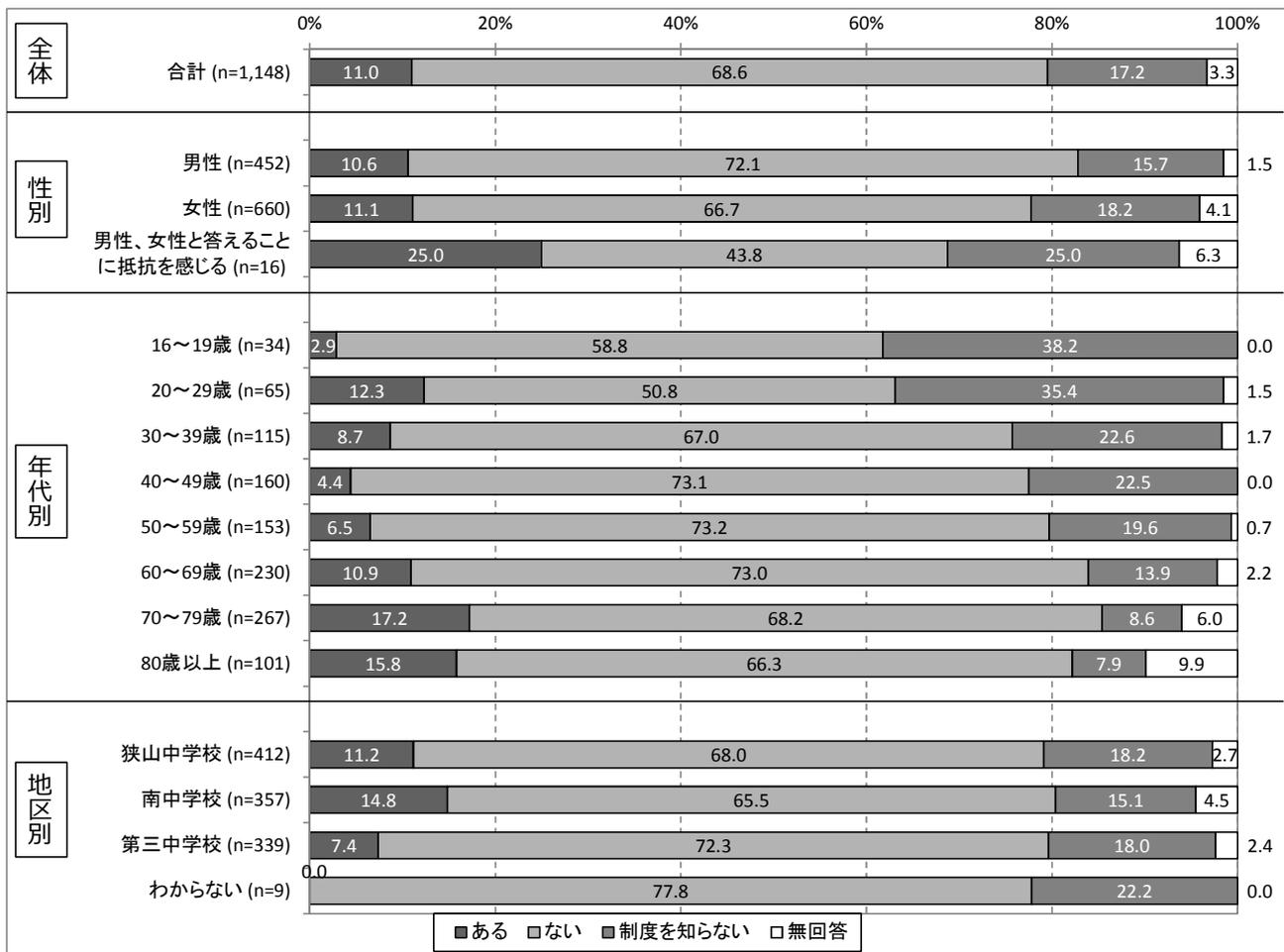
70歳代以上は、他の年代に比べ「ある」の比率が高い。

有意な差は認められないが、10歳代と40歳代～50歳代は他の年代に比べ「ある」の比率が低い。

「制度を知らない」は、年代が低いほど比率が高くなっている。

【地区別】

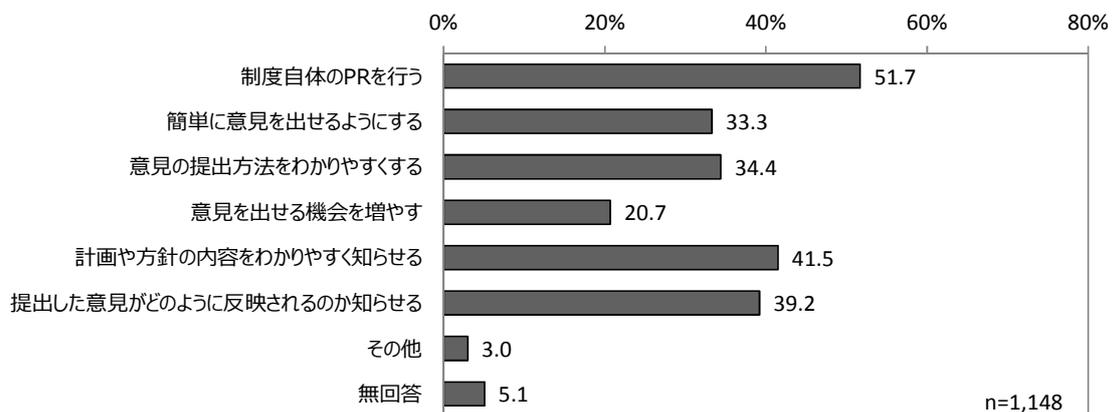
南中学校区は、他の地区に比べ「ある」の比率が高い。



問10-6 市民意見提出手続（パブリックコメント）を多くの市民に利用してもらうためには、何が重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

【全体】

「制度自体のPRを行う」が51.7%で最も多く、「計画や方針の内容をわかりやすく知らせる」が41.5%、「提出した意見がどのように反映されるのか知らせる」が39.2%と続いている。



【性別】

女性は、男性に比べ「提出した意見がどのように反映されるのか知らせる」の比率が高い。

【年齢別】

10歳代は、他の年代に比べ「制度自体のPRを行う」の比率が低い。また、有意な差は認められないが、「計画や方針の内容をわかりやすく知らせる」の比率が高い。

20歳代～30歳代は、他の年代に比べ「簡単に意見を出せるようにする」の比率が高い。

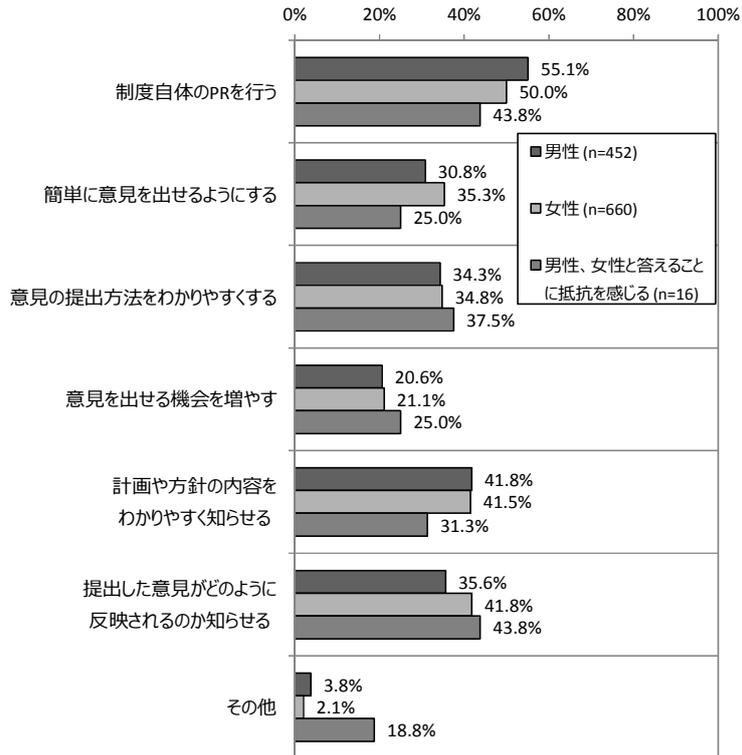
60歳代は、他の年代に比べ「制度自体のPRを行う」の比率が高い。

70歳代は、他の年代に比べ「簡単に意見を出せるようにする」の比率が低い。

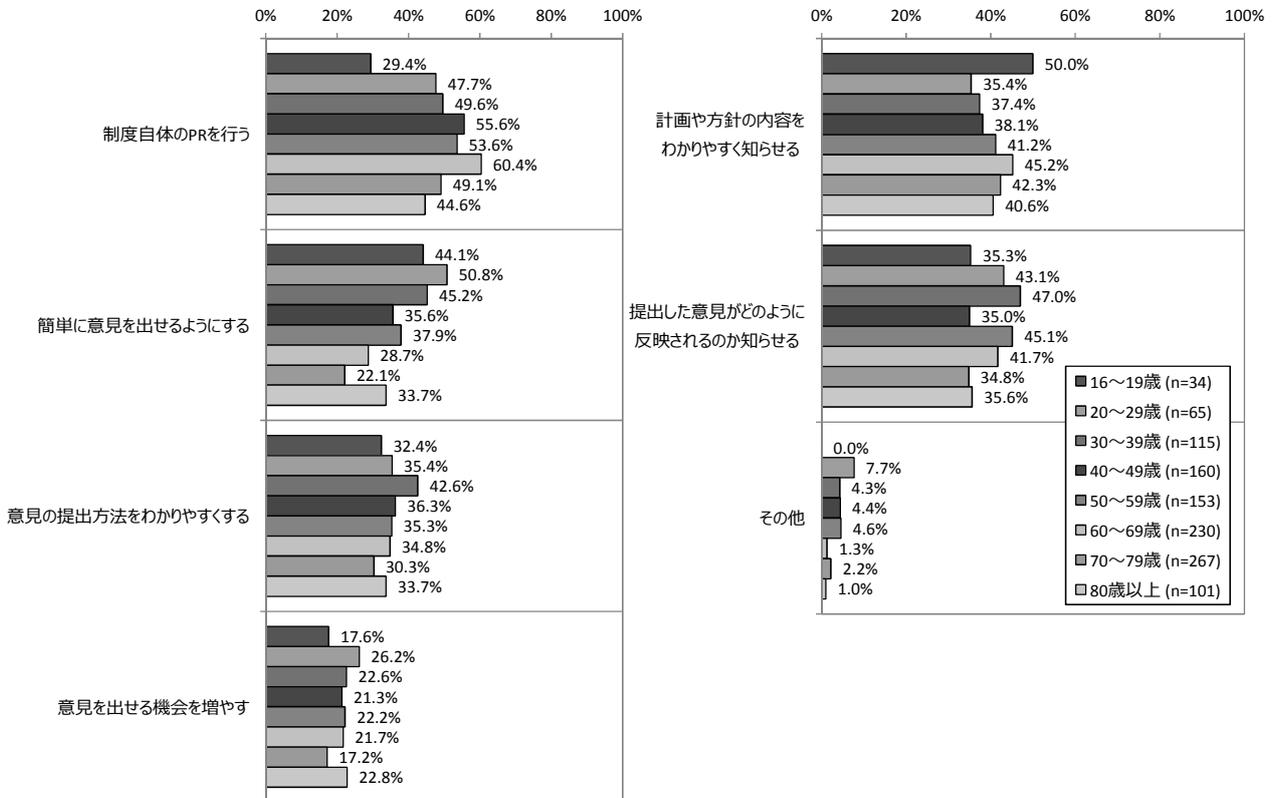
【地区別】

地区による大きな違いは見られない。

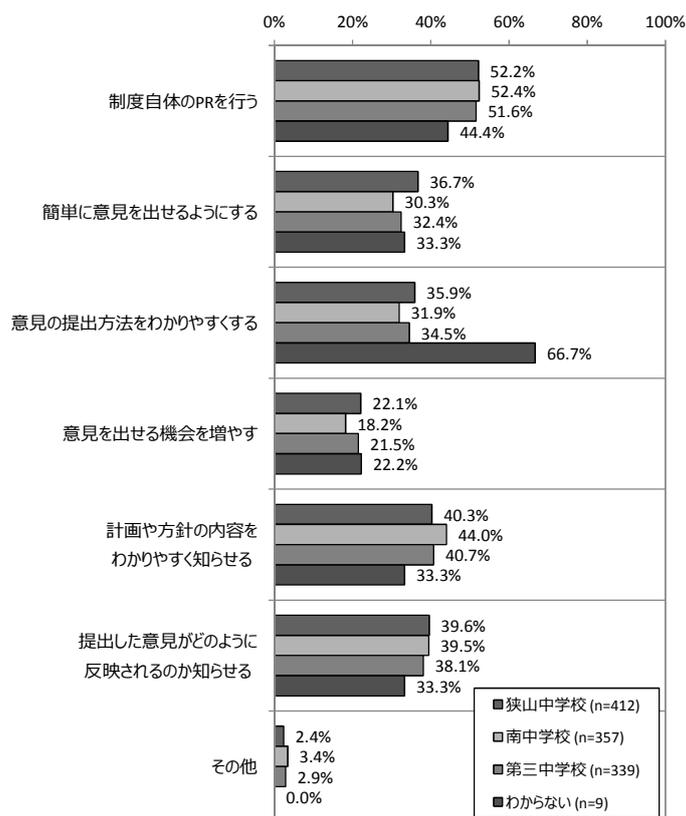
性別



年齢別



地区別



【その他について】

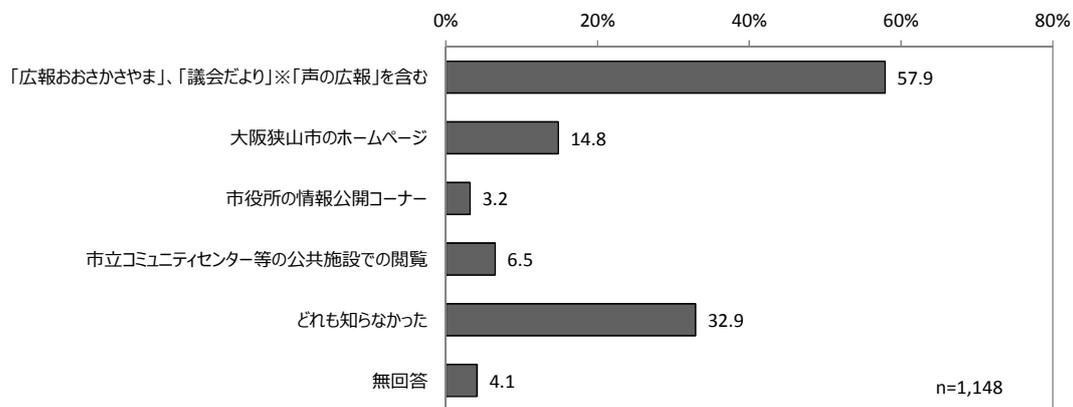
その他には、25件（回答者は25人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
SNSでの意見募集。
Web
メールアドレス登録を促し、メルマガ配信。
パブコメ募集の広報強化。
意見の出せる場所を多くつくる。
匿名の意見も可能にする。
意見を出したら、1件1000円支給。（非課税）
重要な意見を提出した者に対する表彰・景品授与等の制度を作る。
回答を必ずすること。
行政側がオープンであること。
採用された数を出す。
提出した意見を見れるようにする。
もっと気軽に簡単にできること。
小中学校などで子供の時から参加する事を教える。
今なのか、将来の大阪狭山市なのか分からない。
不要。
なし。
全く知らない。
わからない。

問 10-7 市民意見提出手続（パブリックコメント）の周知方法で、知っているものはどれですか。（〇はいくつでも）

【全体】

「広報おおさかさやま、議会だより」が 57.9%で最も多く、「どれも知らなかった」が 32.9%、「大阪狭山市のホームページ」が 14.8%で続いている。



【性別】

男性は、女性に比べ「大阪狭山市のホームページ」の比率が高い。

【年齢別】

10 歳代～40 歳代は、他の年代に比べ「どれも知らなかった」の比率が高い。

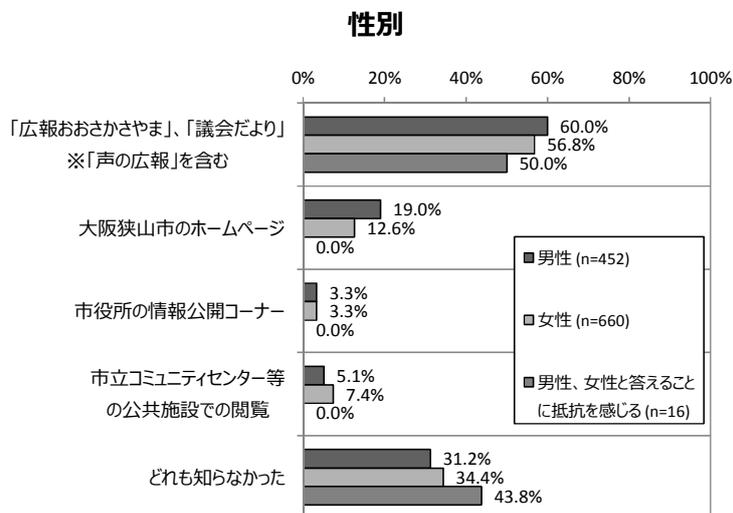
60 歳代以上は、他の年代に比べ「広報おおさかさやま、議会だより」の比率が高い。

70 歳代は、他の年代に比べ「市立コミュニティセンター等の公共施設での閲覧」の比率が高い。

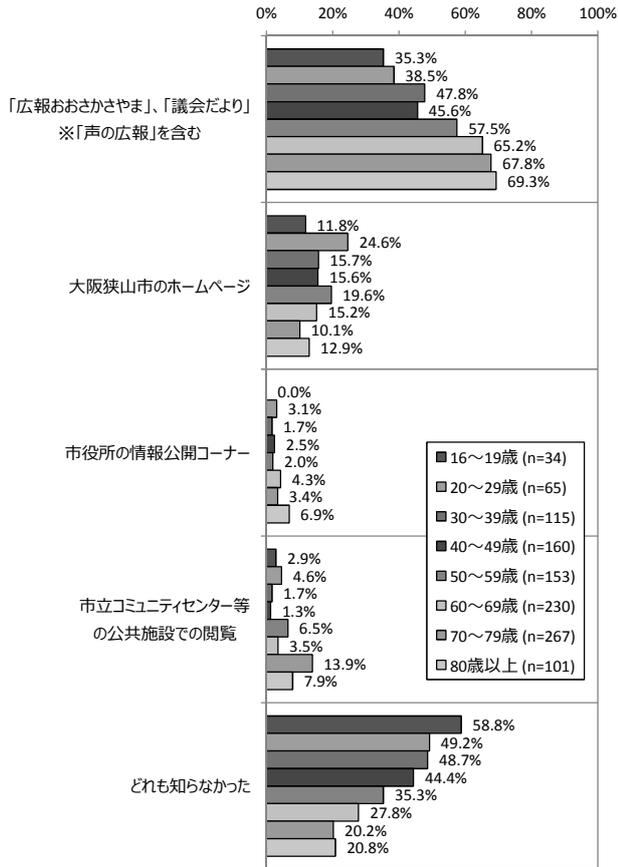
有意な差は認められないが、20 歳代は他の年代に比べ「大阪狭山市のホームページ」の比率が高い。

【地区別】

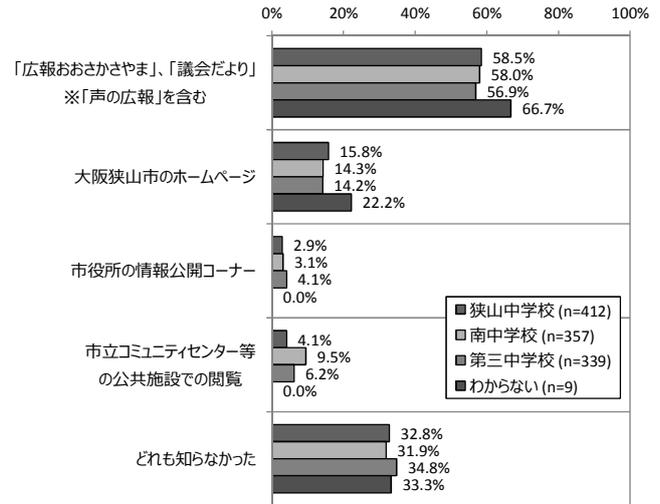
南中学校区は、他の地区に比べ「市立コミュニティセンター等の公共施設での閲覧」の比率が高い。



年齢別



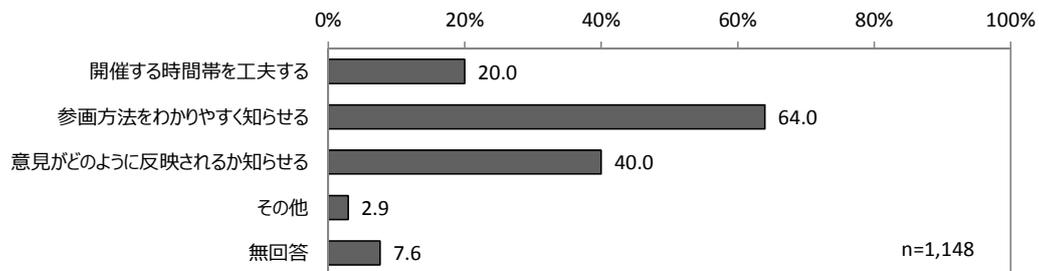
地区別



**問10-8 審議会等へより多くの市民に参画してもらうためには、何が重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)**

【全体】

「参画方法をわかりやすく知らせる」が64.0%で最も多く、「意見がどのように反映されるか知らせる」が40.0%で続いている。



【性別】

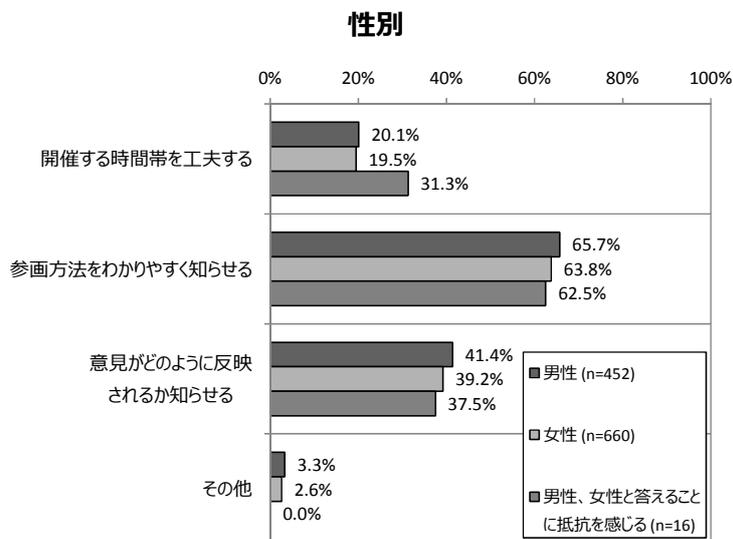
性別による大きな違いは見られない。

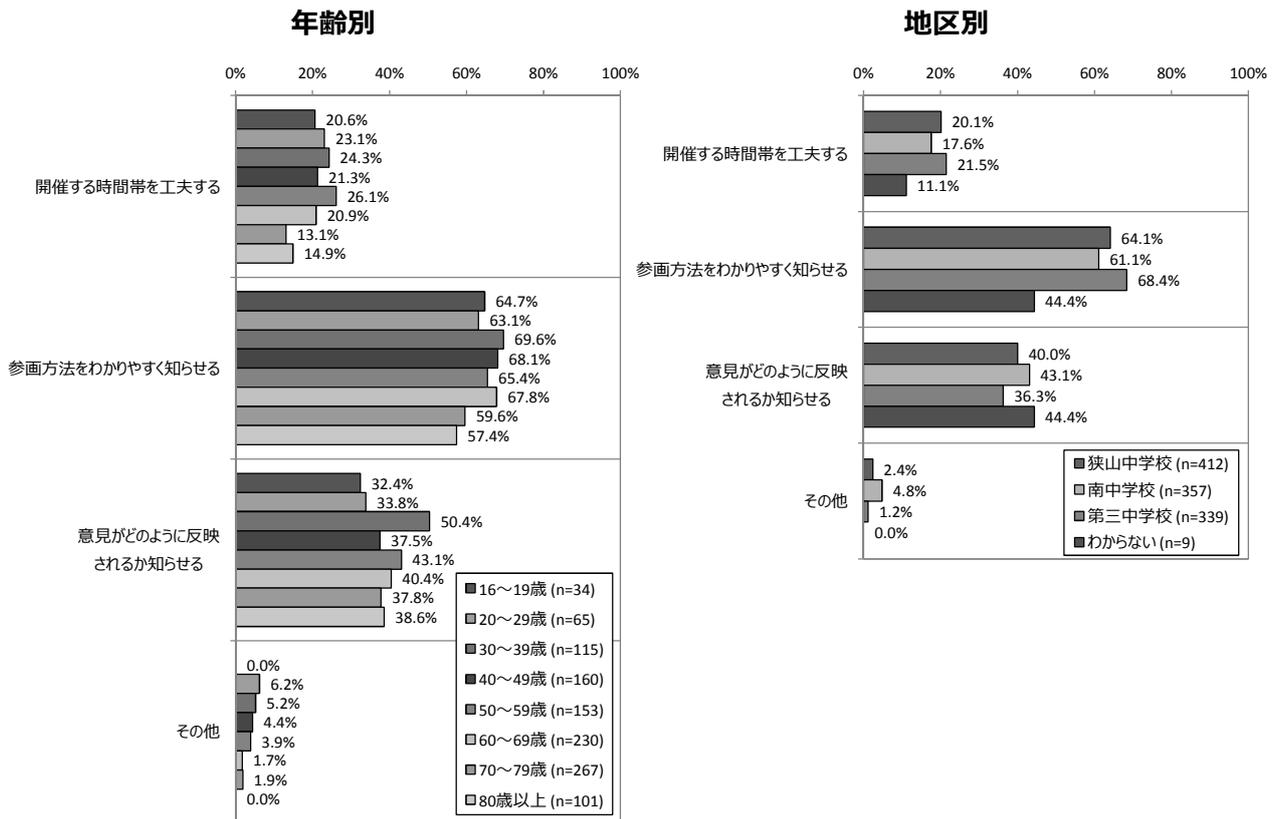
【年齢別】

有意な差は認められないが、30歳代は他の年代に比べ「意見がどのように反映されるか知らせる」の比率が高く、70歳代以上は「開催する時間帯を工夫する」の比率が低い。

【地区別】

有意な差は認められないが、第三中学校区は他の地区に比べ「参画方法をわかりやすく知らせる」の比率が高く、「意見がどのように反映されるか知らせる」の比率が低い。





【その他について】

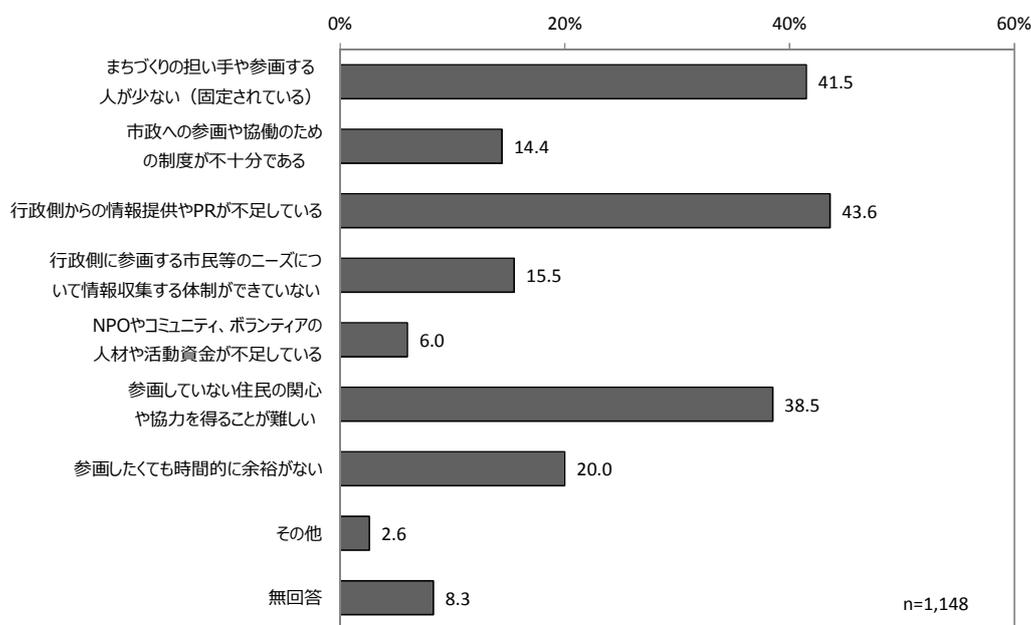
その他には、23 件（回答者は 23 人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
ホームページで配信する。
メールもしくはDM郵送。
PR
会を SNS で中継。
ネットを使う等して意見できるようにする。
誰でも参加できる仕組み。時間のある人しかできないため。
各地区の自治会まで下ろしていくと具体が出やすいと思います。
気軽に参画できるようにする。
参画の意義をわかりやすく伝える。
参加しようと思わせること。
参加したら賞金、20 代～40 代だけ。
何かメリットが必要。ゴミのシールがもらえとか。
「変わる」という実感。
結果を分かり易く公表する。
現状で充分。
なし。
わからない。

問10-9 市政への参画、協働を推進するうえで課題と思われるものは何ですか。(〇はいくつでも)

【全体】

「行政側からの情報提供やPRが不足している」が43.6%で最も多く、「まちづくりの担い手や参画する人がいない(固定されている)」が41.5%、「参画していない住民の関心や協力を得ることが難しい」が38.5%で続いている。



【性別】

男性は、女性に比べ「行政側からの情報提供やPRが不足している」の比率が高い。

有意な差は認められないが、男性は「市政への参画や協働のための制度が不十分である」の比率が高く、女性は「参画していない住民の関心や協力を得ることが難しい」の比率が高い。

【年齢別】

20歳代~40歳代は、他の年代に比べ「参画したくても時間的に余裕がない」の比率が高い。

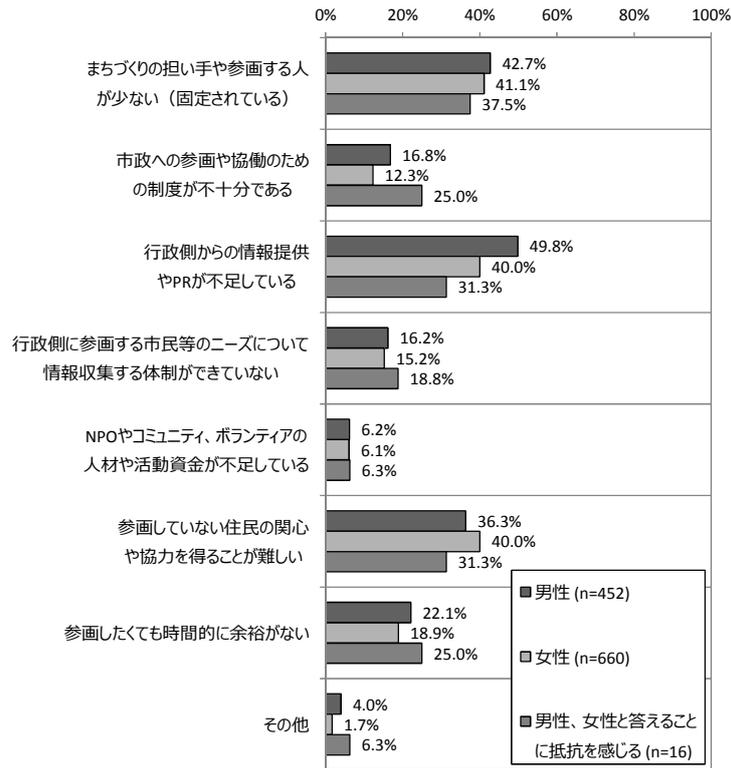
70歳代は、他の年代に比べ「行政側からの情報提供やPRが不足している」の比率が高い。

有意な差は認められないが、10歳代は「NPOやコミュニティ、ボランティアの人材や活動資金が不足している」の比率が高く、20歳代~30歳代は「参画していない住民の関心や協力を得ることが難しい」の比率が高く、80歳以上は「市政への参画や協働のための制度が不十分である」の比率が高い。

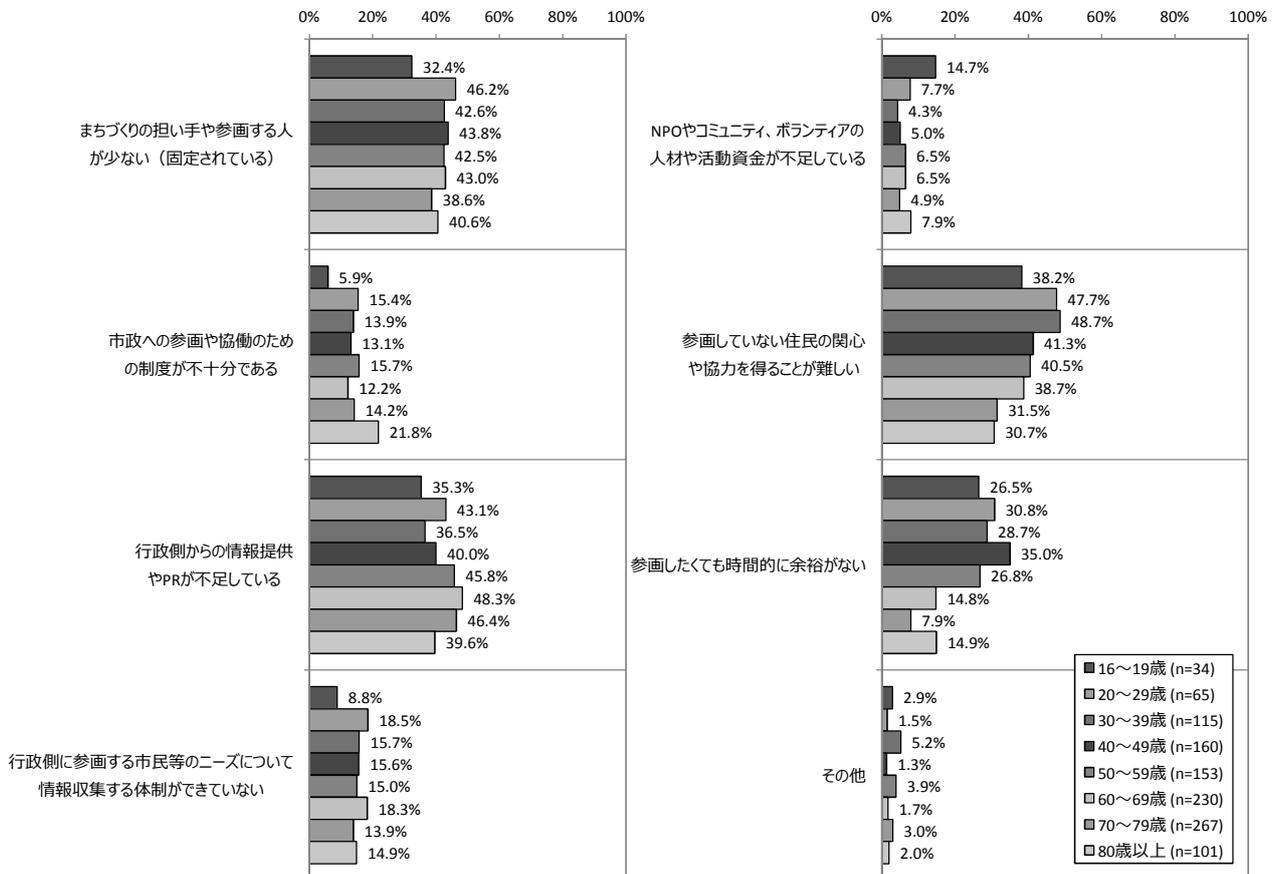
【地区別】

有意な差は認められないが、南中学校区は他の地区に比べ「参画したくても時間的に余裕がない」の比率が低く、第三中学校区は「参画していない住民の関心や協力を得ることが難しい」の比率が低い。

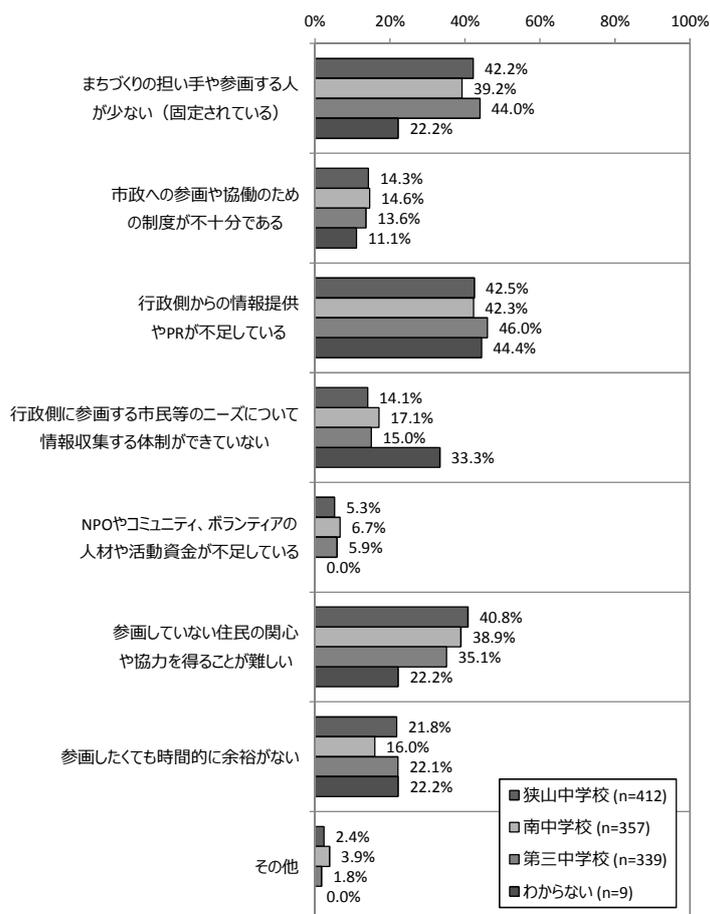
性別



年齢別



地区別



【その他について】

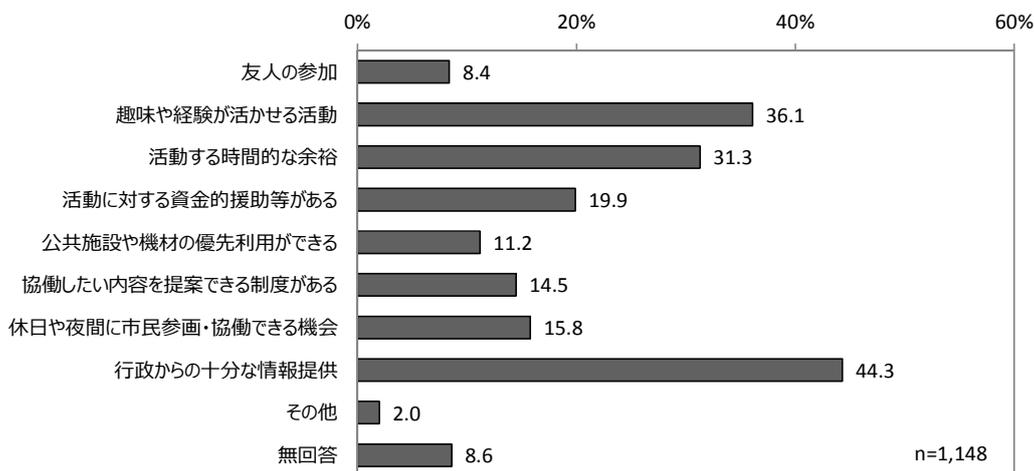
その他には、19件（回答者は19人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
(適度の)例有償ボランティア制度導入。発想の柔難性。
ボランティア＝高齢者だと思われる。
参画することのメリットをPRできていない。
敷居が高い。
市民は市に税を払っているので、市がすべき事を市民にさせるのはおかしい。出来ない事はやめておけばよい。
参画協働の意義にあまり賛同出来ない。
参画したことがどう反映されるかを知る。
情報提供してほしい。
なし
わからない

問10-10 あなたは、市政への参画、市民と行政との協働をさらに広げていくために、どのような条件があればよいと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「行政からの十分な情報提供」が44.3%で最も多く、「趣味や経験が活かせる活動」が36.1%、「活動する時間的な余裕」が31.3%で続いている。



【性別】

有意な差は認められないが、男性は女性に比べ「趣味や経験が活かせる活動」と「休日や夜間に市民参画・協働できる機会」の比率が高い。

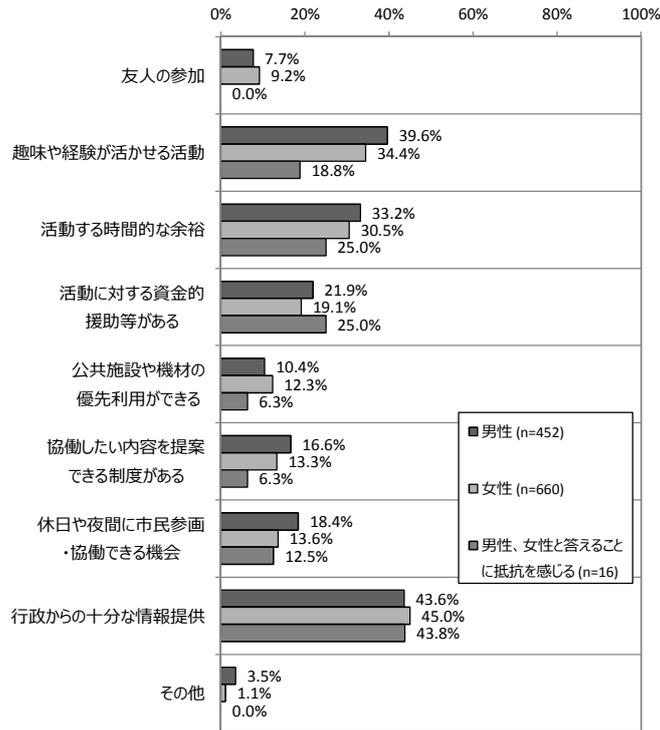
【年齢別】

- 10 歳代は、他の年代に比べ「友人の参加」の比率が高い。
 - 20 歳代～50 歳代は、他の年代に比べ「活動する時間的な余裕」の比率が高い。
 - 30 歳代は、他の年代に比べ「活動に対する資金的援助等がある」の比率が高い。
 - 50 歳代は、他の年代に比べ「休日や夜間に市民参画・協働できる機会」の比率が高い。
 - 60 歳代は、他の年代に比べ「行政からの十分な情報提供」の比率が高い。
 - 70 歳代は、他の年代に比べ「活動する時間的な余裕」の比率が低い。
- 有意な差は認められないが、30 歳代～40 歳代は「趣味や経験が活かせる活動」の比率が高い。

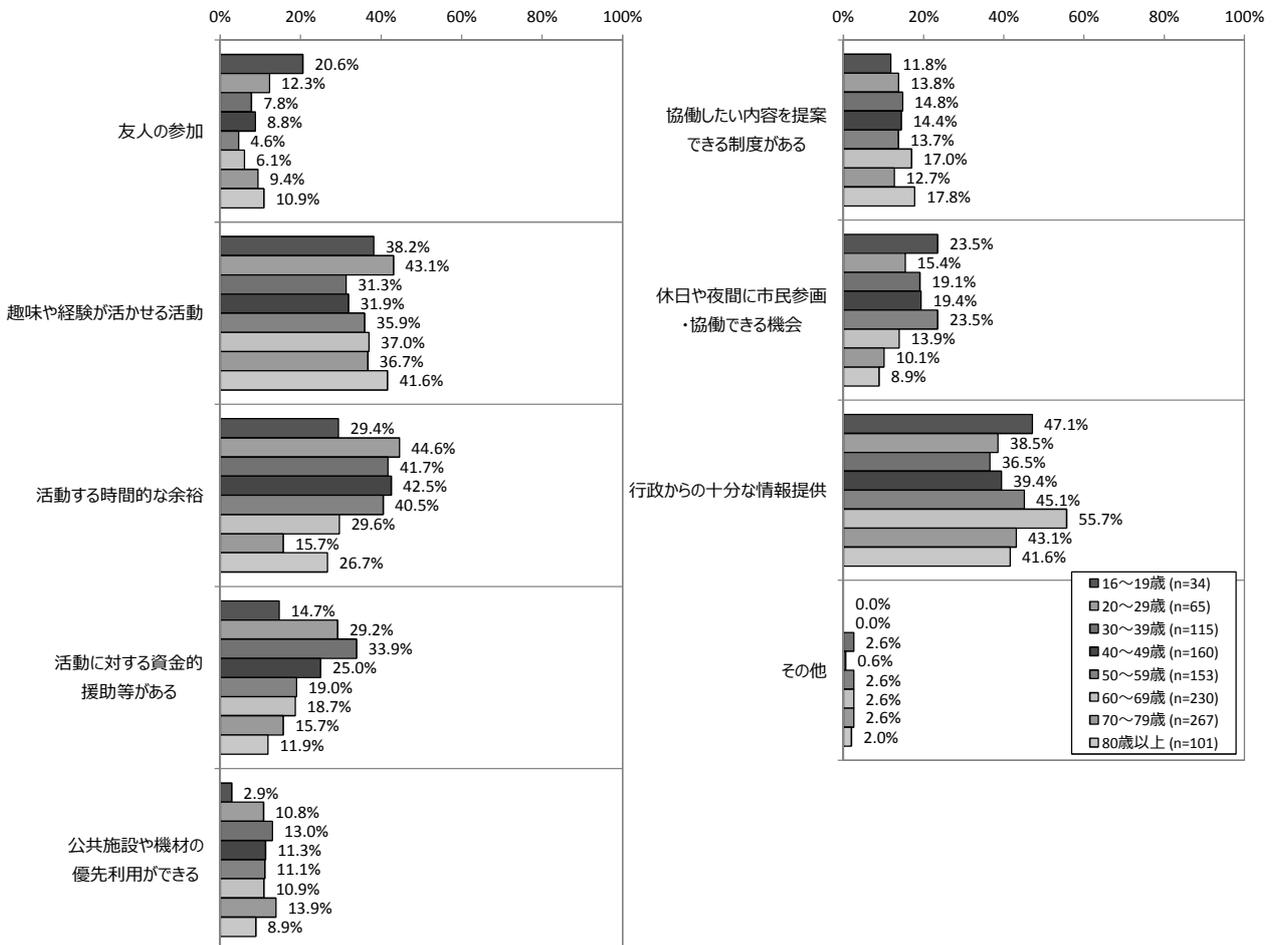
【地区別】

狭山中学校区は、他の地区よりも「活動する時間的な余裕」の比率が高い。
 有意な差は認められないが、南中学校区は「趣味や経験が活かせる活動」と「休日や夜間に市民参画・協働できる機会」の比率が低い。

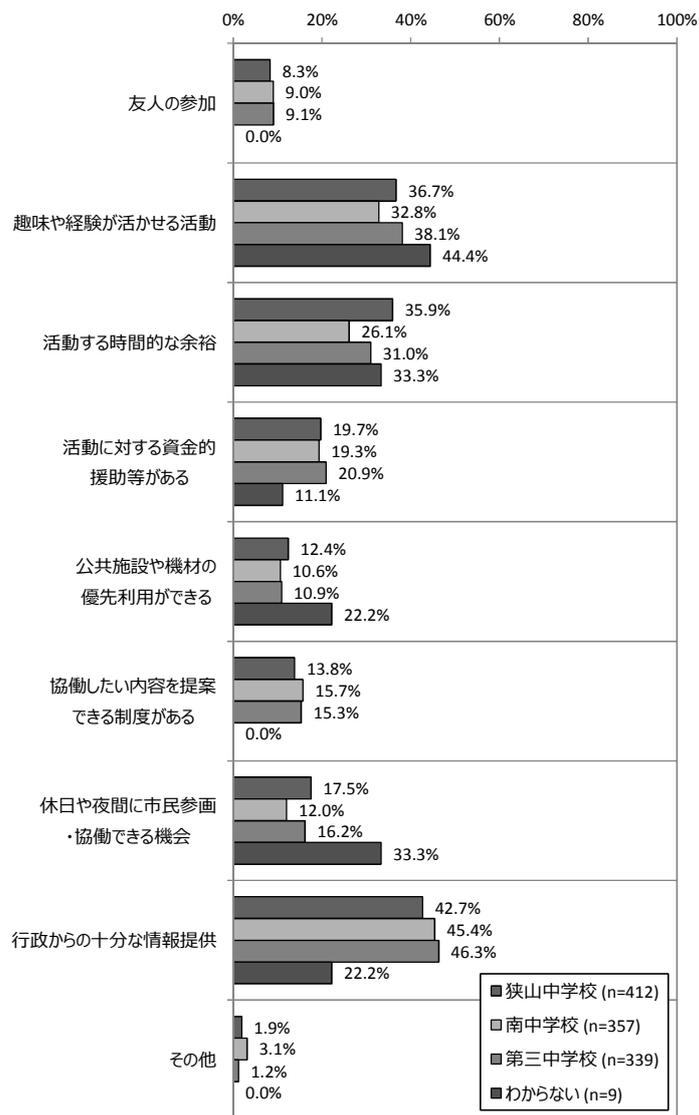
性別



年齢別



地区別



【その他について】

その他には、15 件（回答者は 15 人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
IT投資。
意見収集へ。掲示板・メールなど IT の活用。
公共施設不足。
参画は必要ないと思う。
市政への参画協働の再考を希望する。
自治会から数名参加義務。
なし。
わからない。

問 1 0 - 1 1 大阪狭山市自治基本条例の条文について、見直すべき点がありますか。(○は1つ)

【全体】

「ない」が 70.9%で、全体の 7 割以上が大阪狭山市自治基本条例の条文について、見直すべき点がないと考えている。

【性別】

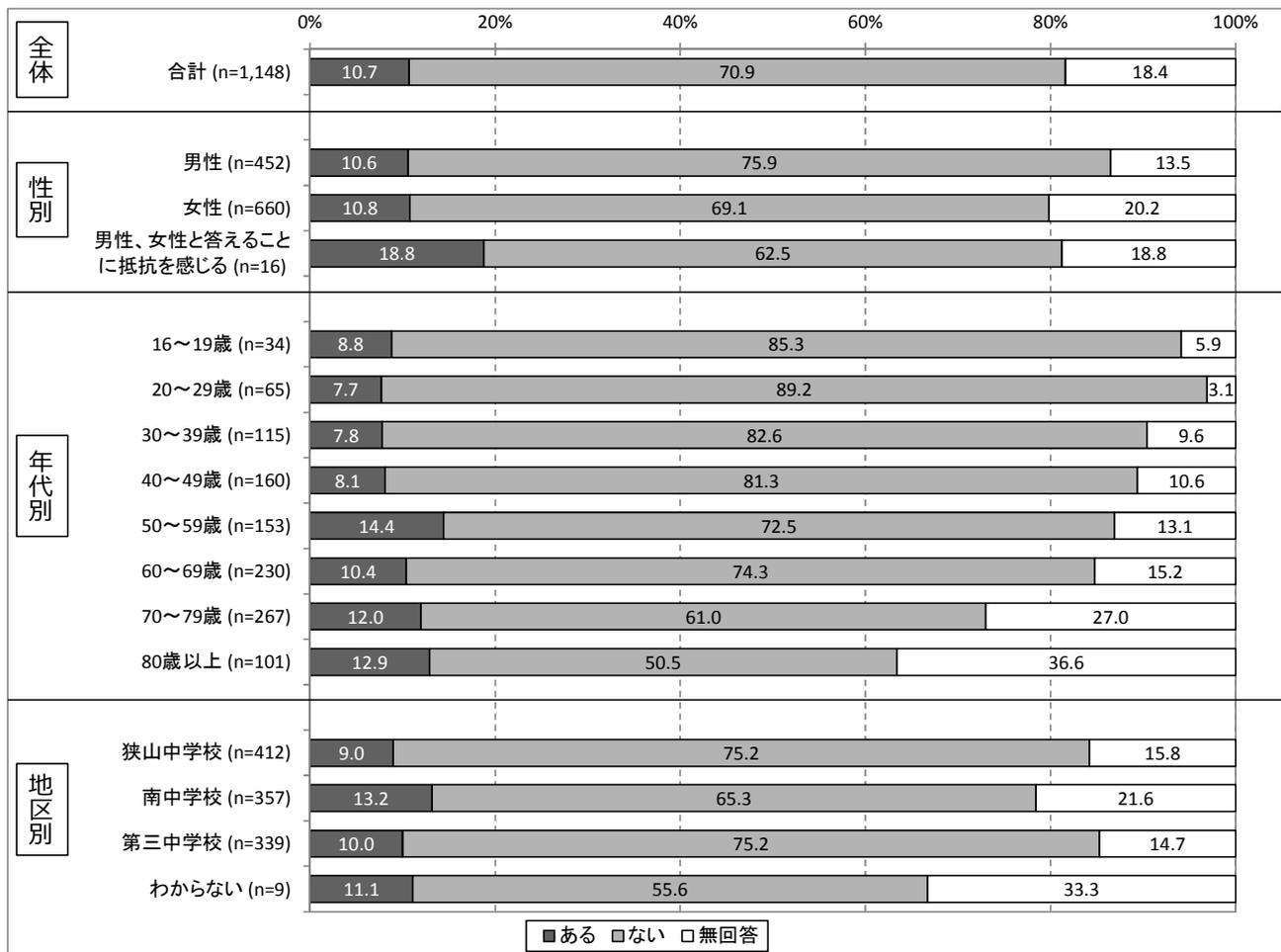
性別による大きな違いは見られない。

【年齢別】

有意な差は認められないが、50 歳代と 70 歳代以上は他の年代に比べ「ある」の比率が高い。

【地区別】

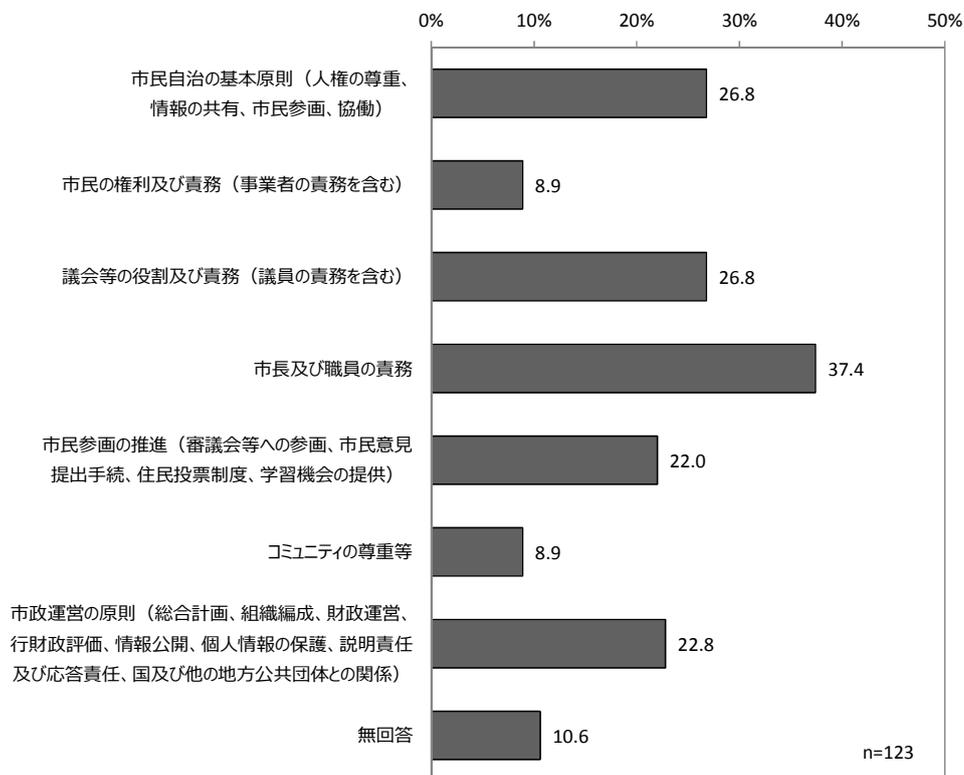
有意な差は認められないが、南中学校区は他の地区に比べ「ある」の比率が高い。



⇒上記で「1. ある」と答えた方にお聞きします。次の項目の中で、見直すべき点はどこだと思いますか。あてはまるものをお選びください。（〇はいくつでも）

【全体】

「市長及び職員の責務」が 37.4%で最も多く、「市民自治の基本原則（人権の尊重、情報の共有、市民参画、協働）」と「議会等の役割及び責務（議員の責務を含む）」が 26.8%で続いている。



【性別】

有意な差は認められないが、男性は「市民参画の推進」の比率が高く、女性は「市長及び職員の責務」と「市政運営の原則」の比率が高い。

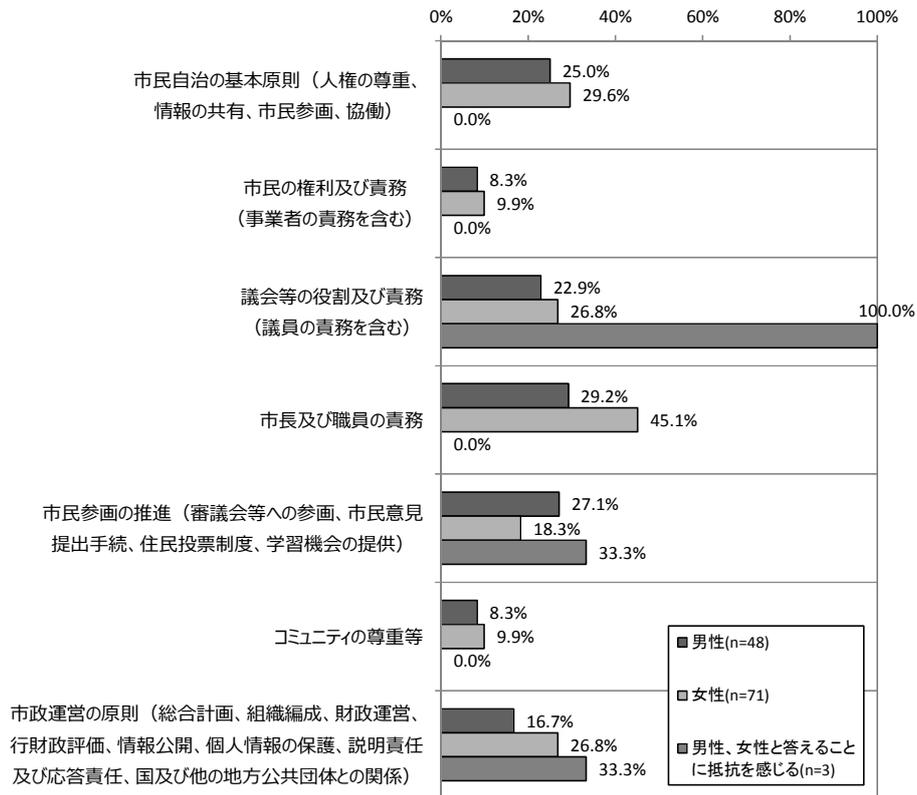
【年齢別】 ※回答者数が少ないため、16～29 歳、30～49 歳、50～69 歳、70 歳以上に分類しなおして考察している。

有意な差は認められないが、10 歳代～20 歳代は「議会等の役割及び責務」の比率が低く、「市政運営の原則」の比率が高い。また、30 歳代～40 歳代は「市民自治の基本原則」、「市長及び職員の責務」、「市民参画の推進」、「コミュニティの尊重等」の比率が低く、50 歳代～60 歳代は「市民の権利及び責務」の比率が高い。

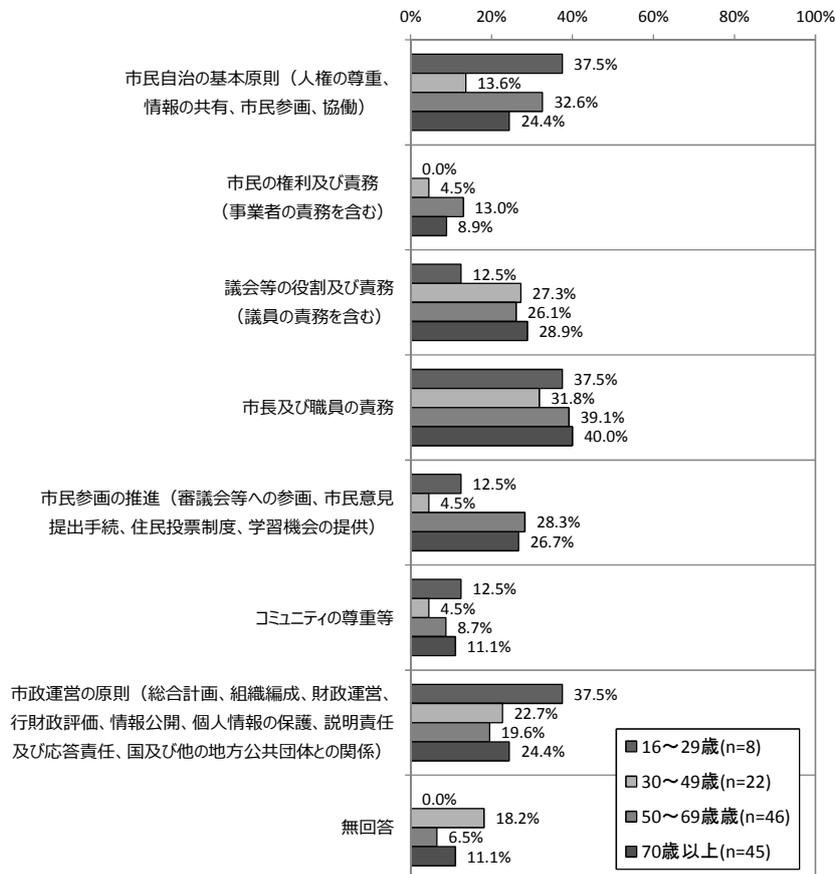
【地区別】

有意な差は認められないが、南中学校区は「市民の権利及び責務」の比率が高く、「議会等の役割及び責務」、「市長及び職員の責務」、「市民参画の推進」の比率が低い。また、第三中学校区は「市民自治の基本原則」、「コミュニティの尊重等」、「市政運営の原則」の比率が低い。

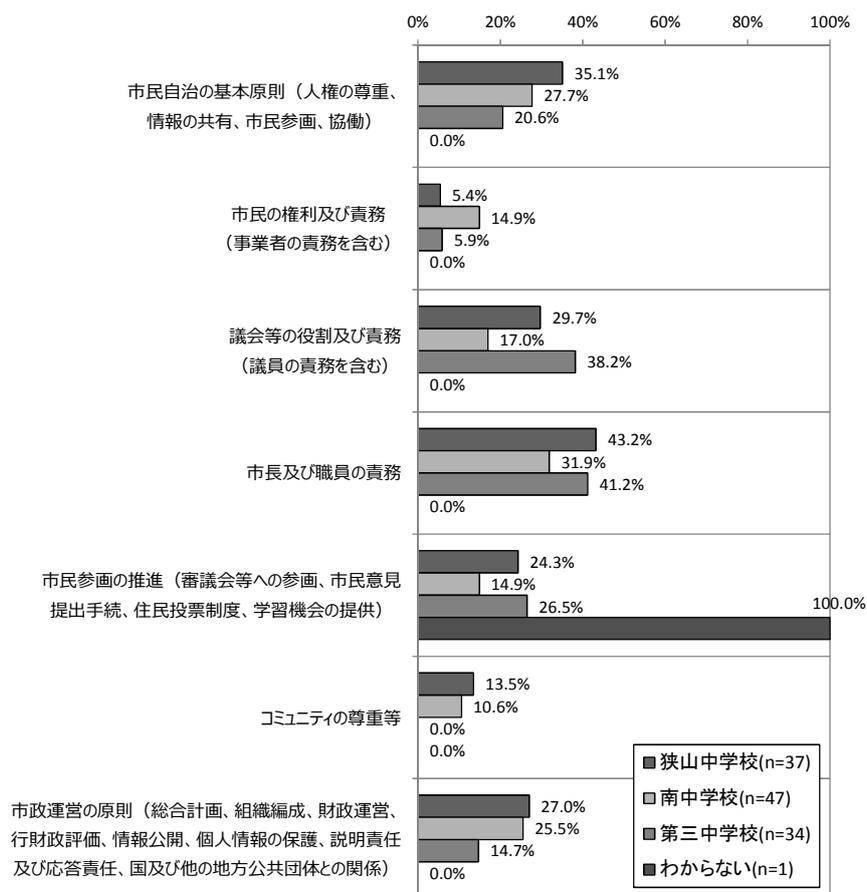
性別



年齢別



地区別



【その他について】

その他には、35件（回答者は32人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
安心、安全なまちづくりの推進。
市民の定義が広すぎる。
高齢者が増すと、自己主張の強い方が増すと思われる。
地域住民の多数の迷惑となる行為には行政が積極的に是正できる文言の追加（モンスターペアレントには先生だけでなく市も積極的に対処できる文言。但し先生、地域、団体の指導者は義務と責任がある事を認識させる。）
アンケート項目の意図は推測できるが、本条例文も含め共助推進者、並びに参画、参加者の評価→マイナス評価は不要 顕彰制度－仮称大阪狭山市方式、仕組み等を導入して実施する。なお仕事（市長、職員、議会他（給与受給者）はやって当然）対象外。
何年も同じ市長ではなく、最長何年と区切りを決める。
市長は市民の声をもっと聞くべき。ソーラーパネルのことなど。
市長権限の制約。市長が市民の税金を使って行使する際はいくらであっても議会の承認を得ること。
職員の積極的な活動。（押しつけにならない。）
今までの市政運営及び大阪狭山市の規模等から思うことは、市議（市議会議員）過多である3割減程度が望ましいのでは。
議員数削減。落選する人を選ぶ選挙は無駄。
議員の収入と支出の透明化。税金等個人の利益につながるような疑いのある様な事は避ける様に。
市議会議員の人数と報酬は妥当なのか。民間の給料の平均は増えていない状態が続いている。
第12条-2及び第13条-2について活かされているとあまり感じない。したがって議員の定数を減らして、市民に直接還元される市政運営費にお金を回してほしい。
第21条2項「～するものとする。」に関して、コミュニティのための場づくりがあまり行われていないように感じるため、この項に関してものすごく違和感がある。
近大病院跡地の件心配だ。出来るだけ詳細に途中経過など知りたい。
金剛駅、狭山駅構内周辺がもっと開発されれば良いと思う。
時代に沿ったクリエイティブさが欠けてる。先駆的な地方公共団体の事例を参考に取り組む。
市民に責務を言うのはどうか。
第3章9条2の「市民はまちづくりに取り組むよう努めるものとする」は、市民に押し付けがましいと思う。
住民投票の結果の尊重→何らかの形で実施しなければならない。
第8条の市民の権利で、市政情報について知る権利を有するとあるが、市民側にも「知る様に努めなくてはならない」などの努力義務は必要でないか
情報公開を念頭においた制度設計はよいと思う。一方で、市民を含めた市の構成員に責務を掲示しているのに、内容は努力義務がほとんどであり、結局今一つ内容が乏しい様に思う。
第18条1項より「市民の意見に対する市の考え方の公表」はもちろんのこと、「その後のフォロー状況についても伝えていく」ことを定義してはどうかと思う。
近所づき合いの大切や美化清そうの大切を皆に知ってもらおう努力をお願い致したい。根本的な事が理解出来ない為に市民のあり方が希薄であると感じる。自治会の大切さ自治会運営の難しさ、など高齢化社会問題等々、人にやさしい市であり続けて頂きたいと願う。
高齢者の夫が亡くなり役所へ死亡届を提出、水道料金無料になると全く知らなかった。他の地区の知人より2年半後に教えて貰い手続きした。助かった。何故死亡届提出の際に連携できないのか。
動物（ペット）に対しての事を具体的に。ペットに優しいまちづくり。
すべての内容において具体性に欠ける。
第13条2項。分かり易く説明する様に努める。議員が努めているかどうか評価出来る様な文言を入れてほしい。もっとわかりやすい文章にしてほしい。
この答えははっきり言えない。

問 10-12 「大阪狭山市自治基本条例」には、「市民、議会及び市がそれぞれ市民自治の担い手であることを自覚し、誰もが主体的にまちづくりに参画し、協働する市民自治の確立」をめざすと、前文にあります。そこで、市民自治の実現のために、望ましいと思う自治のあり方はどれですか。(〇は1つ)

【全体】

「市民、事業者、市民団体等と行政のパートナーシップ（協働）によりそれぞれが役割と責任を果たしながら地域社会を発展させる」が 50.4%で最も多く、「地域社会（自治会）のつながりが弱体化しているため、行政が積極的な役割を果たす」が 27.1%で続いている。

【性別】

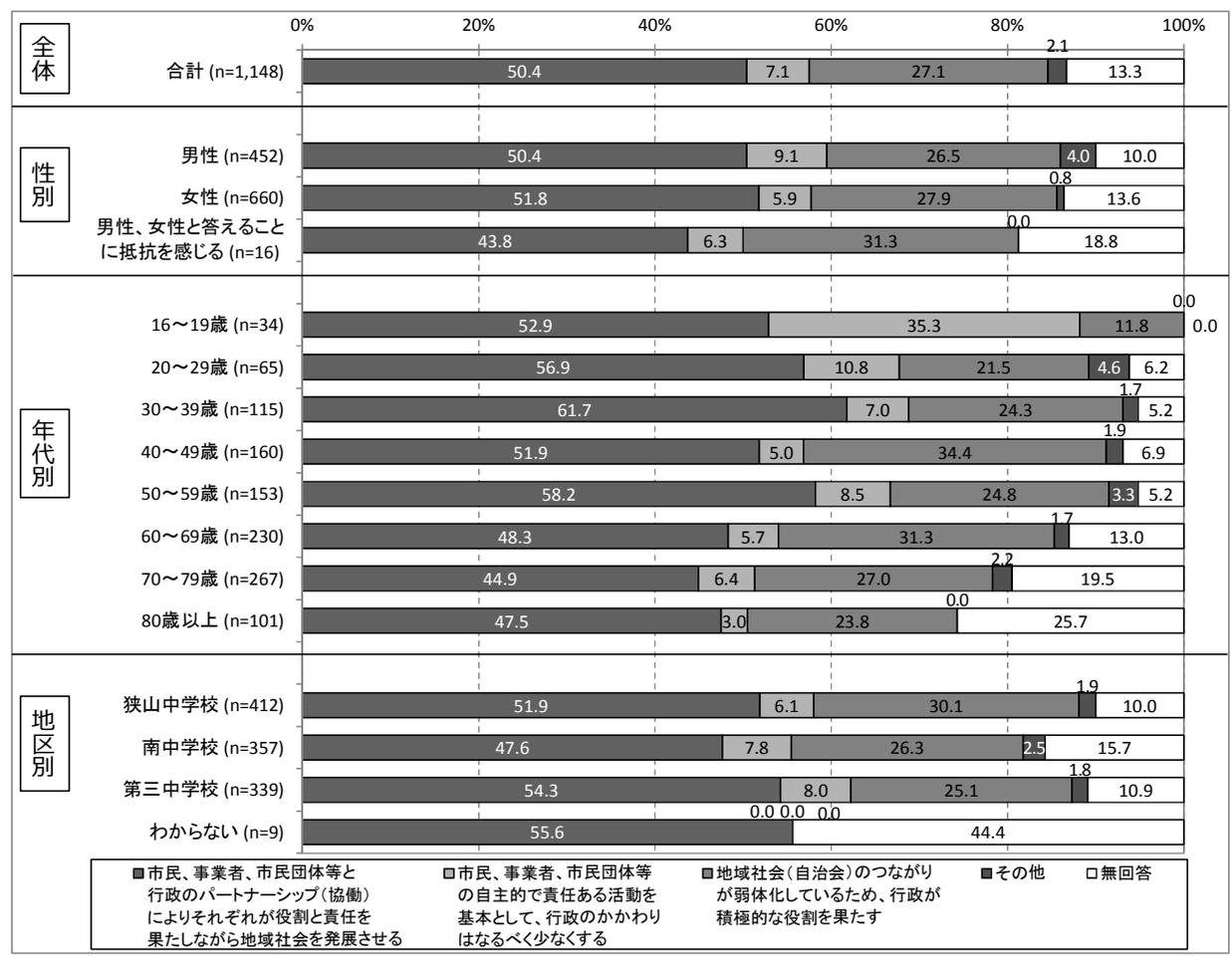
有意な差は認められないが、男性は女性に比べ「市民、事業者、市民団体等の自主的で責任ある活動を基本として、行政のかかわりはなるべく少なくする」の比率が高い。

【年齢別】

10 歳代は、他の年代に比べ「市民、事業者、市民団体等の自主的で責任ある活動を基本として、行政のかかわりはなるべく少なくする」の比率が高く、「地域社会（自治会）のつながりが弱体化しているため、行政が積極的な役割を果たす」の比率が低い。

【地区別】

有意な差は認められないが、狭山中学校区は「地域社会（自治会）のつながりが弱体化しているため、行政が積極的な役割を果たす」の比率が高く、南中学校区は「市民、事業者、市民団体等と行政のパートナーシップ（協働）によりそれぞれが役割と責任を果たしながら地域社会を発展させる」の比率が低い。



【その他について】

その他には、17件（回答者は17人）の回答があった。記述内容をまとめると以下のとおりである。

主な記述内容
公権力が形だけを整えて、「やっています」という姿になり易いことを憂いている。本当に市民の声を聴くということを、常に行政に関わる人達は自戒してほしい。
20代～40代の意見が通らないと、納税者が減って市は滅亡する。高齢市に金を食いつぶされるため。
「2」の状態では行政の管理能力を高める。
各団体が共存できるよう、主体性を持ち、役割分担し、高い意識を持った組織づくり。
行政は支援のみで、困ったことの窓口をつくる。
決定権は議会にあるのだから、責任の取れる議会になってほしい。
全国レベル、周辺地域の協力が必要。
若い人が積極的に参加したいと思える環境づくり。
参画の定義がわかる、(周知)されている。
わからない。
ない。